



わかる, できる, つながる。

通級指導教室サポートパック

中学校における通級による指導の充実を目指して



－ 中学校における通級による指導の充実を目指して －

～ はじめに ～

通級指導教室サポートパックは、「知識・概論編」「運営編」「実践編」「様式・資料集」「校内研修編」の5編で構成し、初めて通級指導担当になった先生をサポートするために作成しました。通級による指導の充実のために、多くの先生方に活用していただければ幸いです。

1 知識・概論 編



特別支援教育や通級による指導について学びたい

1. 特別支援教育	3
2. 通級による指導の制度	5
3. 自立活動の指導	7
4. 教科の内容の取扱い	9
5. 思春期を迎えた生徒への指導	11

2 運営 編



通級指導教室の運営や連携の仕方について知りたい

1. 年間活用モデル・使い方	13
2. 通級による指導の開始まで	16
3. 入級の判断	18
4. 教室環境の整備	19
5. 校内連携・保護者連携	20
6. 小中高連携	23

3

実践編

通級による指導の授業づくりについて知りたい



- 通級による指導モデルケース(漢字を正しく用いて文章を書くことが苦手な生徒)
 1. モデルケースの見方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
 2. 情報収集シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
 3. 自立活動の「個別の指導計画」作成のための流れ図・・・・・・・・27
 4. 自立活動の「個別の指導計画」・・・・・・・・・・・・・・・・31
 5. 授業展開例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
 6. 学習振り返りシート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
 7. 指導の記録シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
 8. 保護者連絡シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
 9. 自立活動の「個別の指導計画」の評価・改善・・・・・・・・40
 10. 個別の教育支援計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
- 自立活動指導例
 1. 計算に困難を抱えている生徒・・・・・・・・・・・・・・・・42
 2. 図形の問題やグラフの読み取りが苦手な生徒・・・・・・・・46
 3. 感情のコントロールが苦手で、トラブルをよく起こす生徒・・・・・・・・50
 4. 自己表現することが苦手で、欠席が増えてきている生徒・・・・・・・・54
 5. 場の空気が読めず、対人関係に困難がある生徒・・・・・・・・58

4

様式・資料集

各種様式や参考資料が欲しい



- 各種様式
 - ・特別な教育的支援を必要とする
児童生徒のチェックリスト
 - ・情報収集シート
 - ・自立活動の「個別の指導計画」
作成のための流れ図
- 参考資料
 - ・学習指導要領における自立活動の内容
 - ・合理的配慮3観点11項目の表
 - ・自立活動の「個別の指導計画」
 - ・学習振り返りシート
 - ・指導の記録シート
 - ・保護者連絡シート
 - ・個別の教育支援計画
 - ・保護者向けリーフレット

5

校内研修編

全教職員で通級による指導の充実を図りたい



- ・通級による指導の理解と連携のための研修スライド
- ・使い方
- ・教職員向けリーフレット

1

知識・概論 編



特別支援教育や通級による指導について学びたい

1. 特別支援教育	3
2. 通級による指導の制度	5
3. 自立活動の指導	7
4. 教科の内容の取扱い	9
5. 思春期を迎えた生徒への指導	11

《Keyword》 共生社会 インクルーシブ教育システム 連続性のある多様な学びの場
個別の教育的ニーズ 障害者差別解消法 合理的配慮



ミコ先生

初めて通級による指導の担当になったミコ先生。特別支援教育コーディネーターのヒロ先生のところへ相談に来ました。



ヒロ先生



初めて通級による指導の担当になるのですが、何から始めたらよいのでしょうか？

通級による指導について理解するためには、まずは特別支援教育について理解しておく必要がありますね。特別支援教育は、

- 障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの。
- 知的な遅れのない発達障害も含めて、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において実施されるもの。
- 障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるもの。

〔特別支援教育の推進について（通知）（平成19年4月1日）〕より作成

とされています。



特別支援教育は、特別支援学校や特別支援学級だけのものではないのですね。私は特別支援学校教諭の免許状を持っていないし、携わることはないと思っていたのですが……。

平成24年の文部科学省の調査では、知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた通常の学級に在籍する児童生徒の割合は約 **6.5%**とされており、その他にも教育的支援を必要としている児童生徒が数多くいる可能性が述べられています。今や、特別支援教育の知識や技術は、校種に関わらず、全ての教員にとって必要なものとなっています。



➡ 平成29年度研究成果物「児童生徒の理解と支援のための研修パック」



確かに、どのクラスにも支援を必要とする生徒はいますね。彼らが周囲の生徒と共に学ぶためにも、特別支援教育の充実が求められているのですね。

「共に学ぶ」はインクルーシブ教育システムを理解する上での重要なキーワードです。「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)(平成24年7月)」では、

- 合理的配慮及びその基礎となる環境整備
- 多様な学びの場の整備と学校間連携等の推進
- 教職員の専門性向上等

の重要性が述べられています。障害のある子供と障害のない子供が同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要であることや、連続性のある多様な学びの場を用意しておくことが必要であるとの考え方が示されました。



学校における合理的配慮にはどのようなものがありますか？

平成28年に施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」においては、障害者も含めた国民一人一人が、それぞれの立場において差別の解消に向けた具体的な取組を自発的に行うことを促しており、共生社会の実現を目指し、合理的配慮を行うことなどが求められています。

このことを踏まえて、学校現場においては指示や提示の方法の工夫、ICTの活用など、一人一人の教育的ニーズに応じた合理的配慮の提供が行われています。障害のある生徒が通常の学級で学習に参加するために必要な支援は何なのか、学校全体で考えていく必要があります。



平成30年度研究成果物「ともまなびガイド」



様式・資料集 合理的配慮の3観点11項目の表



「連続性のある多様な学びの場」って何ですか？

連続性のある多様な学びの場とは、

通常の学級 通級による指導 特別支援学級 特別支援学校

のことを指します。

個別の教育的ニーズがある子供に対し、自立と社会参加を見据え、その時々で教育的ニーズに最も的確に応える指導が提供できるような環境整備が求められています。ですから、ミユ先生が担当する「通級による指導」はインクルーシブ教育システムを構築する上でとても大きな役割を担っているのですよ。



通級による指導では、連続性のある多様な学びの場の一つとして、生徒の個別の教育的ニーズに応じていくことが重要なのですね！

《Keyword》 障害に応じた特別の指導 特別の教育課程 通級による指導の対象
通級による指導の実施時間 自立活動に相当する指導 自立活動の「個別の指導計画」



通級による指導にはどのような指導形態があるのですか？

通級による指導は、通常の学級に在籍する障害のある児童生徒が、各教科等の大部分の授業を通常の学級で受けながら、一部の授業について、障害に応じた特別の指導を「通級指導教室」といった特別な場で受ける指導形態のことです。「通級指導教室」では、個別指導を中心とした**障害に応じた特別の指導**をきめ細かに、かつ弾力的に行うことができます。指導形態には、以下の3つがあります。

自校通級	生徒が在籍する学校の通級指導教室において指導を受ける。
他校通級	生徒が他の学校の通級指導教室に行き、指導を受ける。
巡回指導	通級による指導の担当教師が通級による指導を受ける生徒の学校に赴く。



障害に応じた特別の指導を弾力的に行うとはどういうことですか？

通級による指導を行う場合には、学校教育法施行規則第140条及び第141条を根拠として、**特別の教育課程**を編成することができます。その際には、障害に応じた特別の指導を教育課程に加えるか、その一部に替えることができます。

特別の教育課程の編成	
教育課程に 加える	放課後等の授業のない時間に通級による指導の時間を設定する。 <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px;">在籍校の教育課程</div> <div style="background-color: #f1c232; color: white; padding: 5px;">障害に応じた特別の指導</div> </div> <p>※ 他の生徒に比べて授業時数が増加してしまう。</p>
教育課程の 一部に替える	通常の授業時間に通級による指導の時間を設定する。 <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px;">在籍校の教育課程</div> <div style="background-color: #f1c232; color: white; padding: 5px;">障害に応じた特別の指導</div> <div style="border: 1px solid #f1c232; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center; color: #f1c232;">授業を 抜けた分 の配慮</div> </div> <p>※ 授業時数は増加しないが、授業の内容の補充が課題となる。</p>

障害に応じた特別の指導を教育課程の一部に替える場合、通常の学級における学習を何らかの形で補充する必要が出てきます。具体的には、当該教科担任の先生が授業内容のプリントを渡して家庭で学習させたり、放課後等の時間を利用して補充学習をさせたりする等の方法が考えられます。

そのため、一部の授業に替えて通級による指導の時間を設定する場合には、積み上げが必要な学習でその授業を受けないと内容が分からなくなるような授業を避けたり、家庭学習で補いやすい内容を学習しているときに通級による指導を受けられるようにしたりするなど、学校や学級での工夫・調整が必要となります。





通級による指導の対象となる生徒はどのような生徒ですか？また、どうやって判断すればよいのですか？

通級による指導の対象となる生徒は、

言語障害者、自閉症者、情緒障害者、弱視者、難聴者、学習障害者(LD)、注意欠陥多動性障害者(ADHD)、肢体不自由者、病弱者及び身体虚弱者

と定められており、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のもになります。通級による指導を実施するかどうかの判断においては、生徒自身や保護者の意向も確認しながら、医学的な診断の有無のみにとらわれないよう留意し、総合的に判断する必要があります。なお、知的障害者は比較的多くの時間、特別支援学級において指導する必要があるため通級による指導の対象には含まれていません。

➡ P.18 入級の判断



➡ 様式・資料集 特別な教育支援を必要とする児童生徒のチェックリスト



通級による指導の実施時間はどれくらいなのですか？

生徒一人に対して、年間35単位時間から280単位時間までを標準としているので、週当たり1単位時間から8単位時間程度までとなりますね。ただし、LDやADHDの生徒については月1時間程度でも効果が期待できることから、年間10単位時間が下限となっています。



生徒の実態によって指導の時間も変わってくるのですね……。



そもそも、障害に応じた特別の指導とはどのようなものですか？通常の学級での授業と何が違うのですか？

通級による指導では、障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的とした指導として、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、高等部指導要領を参考として**自立活動に相当する指導**を実施します。個々の障害に応じた特別な指導を行うため、生徒の実態把握に基づき、指導すべき課題を明確にすることによって、指導のねらい及び指導内容を設定し、**自立活動の「個別の指導計画」**を作成する必要があります。

通常の教科指導との大きな違いは、具体的な指導内容があらかじめ学習指導要領に定められていないということです。生徒の実態や教育的ニーズに応じて、指導内容を検討していくことで、いわば「オーダーメイドの指導」をしていくわけです。



通常の学級ではできない「オーダーメイドの指導」を行うための、通級による指導なのですね！

《Keyword》 自立活動の内容6区分27項目 「オーダーメイドの指導」
生徒の主体的な学び 自立活動における学習の評価



自立活動とはどのようなものなのでしょう？聞いたことはあるのですが…。

確かに、自立活動は、特別支援学校や特別支援学級など、特別支援教育に携わった先生以外にはなじみのない言葉かもしれませんが、自立活動は通級による指導の中心となるものです。ミュ先生に限らず、多くの先生にその内容と意義を押さえておいてもらいたいですね。

障害のある生徒の場合、その障害によって、日常生活や学習場面において様々な困難が生じるため、他の生徒と同様に発達段階に即した教育をするだけでは十分とは言えません。そのため、個々の実態に応じて、「人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素」及び「障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素」、いわゆる心身の調和的な発達の基盤に着目して指導するものが自立活動です。自立活動の指導を通して、生徒が主体的に自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きていけるように、生徒の個々の発達の遅れや不均衡を改善したり、発達の進んでいる側面を更に伸ばすことによって遅れている側面の発達を促すようにしたりします。**自立活動の内容は、以下の6区分27項目**に分類されています。



様式・資料集 学習指導要領における自立活動の内容

1 健康の保持	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。
	(2) 病気の状態の理解と生活管理に関すること。
	(3) 身体各部の状態の理解と養護に関すること。
	(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。
	(5) 健康状態の維持・改善に関すること。
2 心理的な安定	(1) 情緒の安定に関すること。
	(2) 状況の理解と変化への対応に関すること。
	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。
3 人間関係の形成	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。
	(2) 他者の意図や感情の理解に関すること。
	(3) 自己の理解と行動の調整に関すること。
	(4) 集団への参加の基礎に関すること。
4 環境の把握	(1) 保有する感覚の活用に関すること。
	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。
	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。
	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。
	(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。
5 身体の動き	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。
	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関すること。
	(3) 日常生活に必要な基本動作に関すること。
	(4) 身体の移動能力に関すること。
	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。
6 コミュニケーション	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。
	(2) 言語の受容と表出に関すること。
	(3) 言語の形成と活用に関すること。
	(4) コミュニケーションの手段の選択と活用に関すること。
	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。



こんなに細かく分類・整理されているのですね！これをどのように活用するのですか？

生徒の実態把握の際には、障害名のみで判断して特定の指導内容に偏ることがないように注意しなければなりません。この6区分27項目の窓を通すことで、対象となる生徒の全体像を捉えて整理していきます。

また、この6区分27項目は指導目標(ねらい)を達成するために必要な項目を選定したり、指導すべき課題相互の関連を検討したりする際の視点にもなります。

実態把握や指導目標の設定において自立活動の内容6区分27項目の窓を通すことで、**オーダーメイドの指導**の根拠が明確に示されるわけです。



P. 27 自立活動の「個別の指導計画」作成のための流れ図



オーダーメイドだからこそ、なぜその内容を指導するのかの根拠が必要なのですね！
ところで、より具体的な指導内容はどのように決めていけばよいのでしょうか？

具体的な指導内容を考える際には、できないことや苦手なことに目が行きがちですが、まずは生徒に寄り添うことが重要です。教員の見立てを押し付けるのではなく、以下の点を考慮し、指導の内容を決めていきましょう。

- ア 主体的に取り組む指導内容
- イ 改善・克服の意欲を喚起する指導内容
- ウ 発達の進んでいる側面を更に伸ばすような指導内容
- エ 自ら環境と関わり合う指導内容 ※幼稚部教育要領
- オ 自ら環境を整える指導内容
- カ 自己選択・自己決定を促す指導内容
- キ 自立活動を学ぶことの意義について考えさせるような指導内容

[特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編]より



通級による指導においても、**生徒の主体的な学び**を促すことが重要なのですね！
生徒の学習状況や成果はどのように評価すればよいですか？

教科指導と同様に、自立活動の指導においても評価が重要です。

指導計画は仮説に基づいて立てた見通しであるため、実際の指導を通して適宜修正を図ります。そのためには、**自立活動における学習の評価**を行い、生徒の変容やつまずきのポイントを明らかにする必要があります。

また、生徒の主体的な学びを促すためにも、生徒自身が学習を振り返ることで自己理解を深めたり、自己肯定感を高めたりしていくことが重要です。

なお、指導の内容や結果は、指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」欄に記載する、もしくは個別の指導計画の写しを添付すること(指導要録に記載される内容が確実に書かれていることが条件)となります。



《Keyword》 各教科の内容を取り扱いながら 単なる教科の補充指導が行えるとの誤解
「学び方を学ぶ」

障害に応じた特別の指導について、

障害に応じた特別の指導は…(中略)…特に必要があるときは、障害の状態に応じて**各教科の内容を取り扱いながら**行うことができる。

[学校教育法施行規則第四百十条の規定による特別の教育課程について定める件(平成5年文部省告示第7号)]

とあります。これは、通級による指導で教科の指導をしてもよいということですか？



通級による指導は、各教科の内容を取り扱う場合であっても、自立活動に相当する指導が基本であるとの位置付けが明確化されています。通級による指導が単なる教科の補充指導にならないようにしなければなりません。

指摘のあった「**各教科の内容を取り扱いながら**行うことができる」という一文は、平成28年の文部科学省告示により改正されたものですが、改正前は以下のようなものでした。

改正前	特に必要があるときは、障害の状態に応じて 各教科の補充をするための特別の指導を含む ものとする。
改正後	特に必要があるときは、障害の状態に応じて 各教科の内容を取り扱いながら 行うことができる。



「各教科の補充」という文言が削除されて、「各教科の内容を取り扱いながら」に変わったのですね！



このような改正がなされたのは、これまでの記述が、障害による困難の克服とは直接関係のない**単なる教科の補充指導が行えるとの誤解**を招いていたためです。

したがって、改正前後の文章の比較から分かるように、通級による指導の内容は単なる教科の補充指導ではなく、あくまでも障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的とした指導、すなわち、自立活動に相当する指導が基本であると言えます。





通級による指導では単なる教科の補充指導を行うことはできないのですね……。では、「各教科の内容を取り扱いながら」とは具体的にどのような指導なのでしょう？

例えば以下のようなものとなります。

≪LD傾向の生徒への指導≫

- ・ 国語の内容を取り扱い、読みが苦手な生徒に対して、障害の特性に応じた読みやすくなる工夫を練習させる。
- ・ 数学の内容を取り扱い、計算が苦手な生徒に対して、具体的な場面を想像して考え方を理解させる。

≪ADHD傾向の生徒への指導≫

- ・ 国語の内容を取り扱い、漢字のへんやつくり、意味に着目して比べて違いを意識できる指導を行う。
- ・ 数学の内容を取り扱い、文章題の必要な情報に注目できるよう練習をしてから解くようにする指導を行う。

〔文部科学省 改訂第3版 障害に応じた通級による指導の手引（海文堂）より〕

生徒の障害の状態に応じた学習方法を習得させる際に、教科の内容を取り扱いながら指導することができるということです。

通級による指導は、障害のある生徒が通常の学級で共に学ぶことを支える役割を担っています。生徒自身が、「自分は〇〇することが苦手だけど、□□をすれば理解することができる」というように、通級による指導で身に付けた学習方法を生かして、通常の学級での学習に参加することを目指します。したがって、通級指導教室は教科の内容を学ぶ場ではなく、「**自分の特性を知り、自分に合った学び方を学ぶ場**」と捉えておくといでしょう。



なるほど、「**学び方を学ぶ**」ために自立活動を行うわけですね。……ということは、私が各教科の学習の仕方について教えるということ？！それとも各教科の先生が指導をすることになるのですか？？

教科の内容を取り扱いながら障害に応じた特別の指導を行う場合には、当該教科の免許状を有する教員も参画して、個別の指導計画の作成や指導を行うことが望ましいとされています。当該教科の教員と指導の内容について相談しながら、生徒の障害による困難の改善・克服のための指導を協力して行っていくことが重要です。

通級による指導の内容はあくまでも自立活動ですから、通級指導担当教員であるミュ先生が指導を行うことが基本です。



通級による指導の内容について先生方にも理解してもらい、協力していただけるように頑張ります！

《Keyword》 思春期の発達課題 自己理解を深める 自己肯定感を高める
将来的な自立・就労に備える 周囲への理解



生徒は思春期を迎えていて、通級による指導を受けることに抵抗感があると思うのですが、どのように指導していけばよいのでしょうか。

思春期は、様々な葛藤の中で自らの生き方を模索し始める時期であり、指導をしていくに当たっては心情への配慮が必要です。特に、通級による指導のように、他の生徒と違う指導を別室で受けることについては、抵抗感を持つことが考えられます。

「こどもの徳育に関する懇談会」(平成21年8月)では、**思春期(青年前期)の発達における重視すべき課題**として、

- 人間としての生き方を踏まえ、自己を見つめ、向上を図るなど自己の在り方に関する思考
- 社会の一員として自立した生活を営む力の育成
- 法やきまりの意義の理解や公德心の自覚

[文部科学省 子どもの徳育に関する懇談会 「審議の概要」より]

が挙げられています。障害による困難を抱えた中学生にとって、通級指導教室での自立活動が重要な役割を果たすことが分かります。

思春期を迎えた生徒に通級による指導を行うに当たっては、指導内容に配慮しましょう。教員の一方的な見立てで指導内容を決定するのではなく、生徒自身の気持ちを尊重していくことが重要です。その中で、例えば、

- 心理的な安定を図り、**自己理解を深める**指導
- ライフスキルを高め、**自己肯定感を高める**指導
- 自分の持てる力を生かし、**将来的な自立・就労に備える**指導

[新版「特別支援学級」と「通級による指導」ハンドブック(東洋館出版社)より]

などを行っていくことが有効であると考えられます。

また、校舎内における通級指導教室の位置を工夫したり、外から見えずらいように教室内のレイアウトを工夫したりすることもできるとよいですね。





通級による指導のことを、周囲の生徒に対してはどのように伝えていくとよいでしょうか。

周囲の生徒に対して理解を促していくことも、思春期を迎えた生徒に通級による指導を行っていく上で重要な視点ですね。

誰にでも得意・不得意があることを理解させたり、それぞれが持ち味を生かして活躍していくことの重要性に気付かせたりしながら、共生社会の担い手としての基礎を育てていくことが重要です。

通級による指導が生徒たちにとって特別なものでなくなれば、インクルーシブ教育システム構築や共生社会の形成に向けた、大きな一歩となりますね。



それは素晴らしいことですね！
通級指導担当教員として頑張れそうな気がしてきました！

通級による指導を実際に担当している先生は、通級による指導のやりがいについてこのように述べています。

- 通級による指導を受けた生徒が、心理的に安定して学校生活が送れるようになった。
- 周囲の友達とのトラブルが減り、良好な人間関係を構築できるようになった。
- 自分の苦手なことへの対応策を知り、学習意欲や登校意欲が増した。
- できない部分ばかり見られていた生徒が、周りの生徒にできることを認められ、自信を持って生活できるようになった。生徒の自己肯定感が高まった。

[令和元年度 宮城県の中学校における通級指導担当教員を対象としたアンケート調査より]

通級による指導を通して、生徒の日常生活や学習において望ましい変容が見られたときにやりがいを感じるようです。

通級指導担当教員は、障害による困難を抱えている生徒の自立を支えていく重要な役割を担っています。



通級による指導は、生徒の学びを支える重要な役割を担っているのですね。生徒と共に、私自身も成長できるように頑張っていきます！

2 運営編



通級指導教室の運営や連携の仕方について知りたい

1. 年間活用モデル・使い方	13
2. 通級による指導の開始まで	16
3. 入級の判断	18
4. 教室環境の整備	19
5. 校内連携・保護者連携	20
6. 小中高連携	23



通級による指導の担当として、授業の準備以外にやるべきことはどんなことがありますか？

【年間活用モデル】を見てください。通級指導教室の運営や通級による指導を行う際の手順が示されていて、通級指導担当教員としての1年間の流れが確認できます。担当として見直しを持つために、参考にしてください。なお、【年間活用モデル】は3期制になっていますので、2期制の場合は加工して活用してください。



【年間活用モデル】

例ですので、時期がずれることや、行わないものもあります。特別支援教育コーディネーターや管理職と相談してください。

月	通級指導担当教員の仕事	通級による指導の実施	関連する様式などにリンクしています。
4月	<input type="checkbox"/> PTA 総会で保護者向けリーフレットの配布 <input type="checkbox"/> 入級決定に向けて 【入級決定までの詳細（前年度に行う）】 <input type="checkbox"/> 生徒・保護者との教育相談（指導内容） <input type="checkbox"/> 校内支援委員会に向けて原案作成 <input type="checkbox"/> 校内支援委員会での検討 <input type="checkbox"/> 生徒・保護者との合意形成 <input type="checkbox"/> 通級による指導開始の決定（校長） <input type="checkbox"/> 市町村教育委員会への連絡（管理職） <input type="checkbox"/> 職員会議で、通級による指導について <input type="checkbox"/> 通級による指導についての校内研修 【校内研修の詳細（必要に応じて）】 <input type="checkbox"/> 教職員向けリーフレットの配布 <input type="checkbox"/> 研修スライドの活用（コーディネーター）	7月 ●通級による指導の実施 ◆夏休み中 <input type="checkbox"/> 生徒・保護者との教育相談（2学期に向けて） <input type="checkbox"/> 個別の指導計画「評価」記入（1学期分） 8月 <input type="checkbox"/> 個別の指導計画「指導目標や指導内容」の見直し（2学期分） <input type="checkbox"/> 教材準備 <input type="checkbox"/> 次年度入学予定者の情報収集（就学指導委員会）	→ 自立活動の「個別の指導計画」 → 自立活動の「個別の指導計画」 の評価・改善
5月	<input type="checkbox"/> 自立活動の「個別の指導計画」完成 ●通級による指導の実施（4月から始め） 【通級による指導開始までの詳細】 <input type="checkbox"/> 通級指導教室の掲示、教室準備等 <input type="checkbox"/> 授業の準備（教材・教具等） <input type="checkbox"/> 通級による指導を行う	9月 ●通級による指導の実施 <input type="checkbox"/> 生徒・保護者との教育相談の日程調整 10月 ●通級による指導の実施 <input type="checkbox"/> 生徒・保護者との教育相談（3学期に向けて） 11月 ●通級による指導の実施 ◆冬休み中 <input type="checkbox"/> 個別の指導計画「評価」記入（2学期分） <input type="checkbox"/> 個別の指導計画「指導目標や指導目標」の見直し（3学期分） <input type="checkbox"/> 教材準備	→ 自立活動の「個別の指導計画」 → 自立活動の「個別の指導計画」 の評価・改善
6月	【通級による指導後の詳細（配布や回覧）】 <input type="checkbox"/> 保護者連絡シートと指導の記録シート <input type="checkbox"/> 保護者連絡シートを、生徒を通じて保護者に渡す <input type="checkbox"/> 指導の記録シートを回覧し、各教科の様子を記入してもらう <input type="checkbox"/> 生徒・保護者との教育相談の日程調整	12月 ●通級による指導の実施 <input type="checkbox"/> 生徒・保護者との教育相談（3学期に向けて） 1月 ●通級による指導の実施 <input type="checkbox"/> 生徒・保護者との教育相談の日程調整 <input type="checkbox"/> 新入生保護者説明会で保護者向けリーフレットの配布 2月 ●通級による指導の実施 <input type="checkbox"/> 個別の指導計画「評価」記入（3学期分） <input type="checkbox"/> 生徒・保護者との教育相談（次年度に向けて） <input type="checkbox"/> 指導の記録を保護者へ配布 <input type="checkbox"/> 次年度への引き継ぎ事項記入 <input type="checkbox"/> 次年度の個別の指導計画の作成 <input type="checkbox"/> 指導要録への記載 <input type="checkbox"/> 新入生の小学校からの引き継ぎ <input type="checkbox"/> 新入生の保護者と教育相談（必要に応じて） 3月	→ 保護者向けリーフレット → 自立活動の「個別の指導計画」 → 自立活動の「個別の指導計画」 の評価・改善 → 小中高連携 → 小中高連携

例として4月からの1年間の流れを示していますが、年度途中の入級も考えられます。

関連する様式などにリンクしています。

完了したら☑！

※宮城県総合教育センターでも研修を行っていますので、可能な限り参加しましょう。
 ※保護者向けリーフレットの配布については、管理職に相談してから行いましょう。

【年間活用モデル】

月	通級指導担当教員の仕事	関連するサポートパック
4月	<input type="checkbox"/> PTA 総会で保護者向けリーフレットの配布 <input type="checkbox"/> 入級決定に向けて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【入級決定までの詳細(前年度に行う場合も)】</p> <input type="checkbox"/> 生徒・保護者との教育相談(指導内容等) <input type="checkbox"/> 校内支援委員会に向けて原案作成(コーディネーターと) <input type="checkbox"/> 校内支援委員会での検討 <input type="checkbox"/> 生徒・保護者との合意形成 <input type="checkbox"/> 通級による指導開始の決定(校長) <input type="checkbox"/> 市町村教育委員会への連絡(管理職)</div>	<p>→保護者向けリーフレット</p> <p>→通級による指導の開始まで</p> <p>→入級の判断</p> <p>→特別な教育的支援を必要とする児童生徒のチェックリスト</p> <p>→教職員向けリーフレット</p> <p>→通級による指導の理解と連携のための研修スライド</p> <p>→自立活動の「個別の指導計画」</p> <p>→個別の教育支援計画</p>
	<input type="checkbox"/> 職員会議で、通級による指導についての周知 <input type="checkbox"/> 通級による指導についての校内研修 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【校内研修の詳細(必要に応じて)】</p> <input type="checkbox"/> 教職員向けリーフレットの配布 <input type="checkbox"/> 研修スライドの活用(コーディネーター)</div> 	
	<input type="checkbox"/> 自立活動の「個別の指導計画」作成 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【個別の指導計画作成までの詳細(5月以降に行う場合も)】</p> <input type="checkbox"/> 各教科担任に情報収集シートの配布・回収 <input type="checkbox"/> 複数の教員による個別の指導計画作成 <p style="text-align: center;">(学級担任, 特別支援教育コーディネーターと)</p> <input type="checkbox"/> 生徒・保護者との教育相談(指導計画の承認) <input type="checkbox"/> 全職員での情報共有・共通理解</div>	
	<input type="checkbox"/> 個別の教育支援計画作成	
5月	<input type="checkbox"/> 自立活動の「個別の指導計画」完成 <p>●通級による指導の実施(4月から始める場合もあり)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【通級による指導開始までの詳細】</p> <input type="checkbox"/> 通級指導教室の掲示, 教室準備等 <input type="checkbox"/> 授業の準備(教材・教具等) <input type="checkbox"/> 通級による指導を行う</div>	<p>→授業展開例</p> <p>→自立活動指導例</p> <p>→教室環境の整備</p> <p>→学習の振り返りシート</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【通級による指導後の詳細(配布や回覧については要相談)】</p> <input type="checkbox"/> 保護者連絡シートと指導の記録シートに指導内容を記入する <input type="checkbox"/> 保護者連絡シートを, 生徒を通じて保護者に配布する <input type="checkbox"/> 指導の記録シートを回覧し, 各教科の先生方に授業での生徒の様子を記入してもらう</div> <input type="checkbox"/> 生徒・保護者との教育相談の日程調整	
6月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【通級による指導後の詳細(配布や回覧については要相談)】</p> <input type="checkbox"/> 保護者連絡シートと指導の記録シートに指導内容を記入する <input type="checkbox"/> 保護者連絡シートを, 生徒を通じて保護者に配布する <input type="checkbox"/> 指導の記録シートを回覧し, 各教科の先生方に授業での生徒の様子を記入してもらう</div> <input type="checkbox"/> 生徒・保護者との教育相談の日程調整	<p>→指導の記録シート</p> <p>→保護者連絡シート</p>

7月 8月	<p>●通級による指導の実施</p> <p>◆夏休み中</p> <p><input type="checkbox"/>生徒・保護者との教育相談(2学期に向けて)</p> <p><input type="checkbox"/>個別の指導計画「評価」記入(1学期分)</p> <p><input type="checkbox"/>個別の指導計画「指導目標や指導内容」の見直し(2学期分)</p> <p><input type="checkbox"/>教材準備</p> <p><input type="checkbox"/>次年度入学予定者の情報収集(就学指導委員会)</p>	<p>→自立活動の「個別の指導計画」</p> <p>→自立活動の「個別の指導計画」 の評価・改善</p>
9月	<p>●通級による指導の実施</p>	
10月	<p>●通級による指導の実施</p> <p><input type="checkbox"/>生徒・保護者との教育相談の日程調整</p>	
11月	<p>●通級による指導の実施</p> <p><input type="checkbox"/>生徒・保護者との教育相談(3学期に向けて)</p>	
12月	<p>●通級による指導の実施</p> <p>◆冬休み中</p> <p><input type="checkbox"/>個別の指導計画「評価」記入(2学期分)</p> <p><input type="checkbox"/>個別の指導計画「指導目標や指導目標」の見直し(3学期分)</p> <p><input type="checkbox"/>教材準備</p>	<p>→自立活動の「個別の指導計画」</p> <p>→自立活動の「個別の指導計画」 の評価・改善</p>
1月	<p>●通級による指導の実施</p> <p><input type="checkbox"/>生徒・保護者との教育相談の日程調整</p> <p><input type="checkbox"/>新入生保護者説明会で保護者向けリーフレットの配布</p>	<p>→保護者向けリーフレット</p>
2月 3月	<p>●通級による指導の実施</p> <p><input type="checkbox"/>個別の指導計画「評価」記入(3学期分)</p> <p><input type="checkbox"/>生徒・保護者との教育相談(次年度に向けて)</p> <p><input type="checkbox"/>指導の記録を保護者へ配布</p> <p><input type="checkbox"/>次年度への引き継ぎ事項記入</p> <p><input type="checkbox"/>次年度の個別の指導計画の作成</p> <p><input type="checkbox"/>指導要録への記載</p> <p><input type="checkbox"/>新入生の小学校からの引き継ぎ</p> <p><input type="checkbox"/>新入生の保護者と教育相談(必要に応じて)</p>	<p>→自立活動の「個別の指導計画」</p> <p>→自立活動の「個別の指導計画」 の評価・改善</p> <p>→小中高連携</p> <p>→小中高連携</p>

※宮城県総合教育センターでも研修を行っていますので、可能な限り参加しましょう。

※保護者向けリーフレットの配布については、管理職に相談してから行いましょう。



通級による指導を開始するまでの流れをもう少し詳しく知りたいのですが…。

下記は、新年度から通級による指導を始める学校の通級による指導の開始までの主な流れを示したものです。一つの例として参考にしてください。なお、教育委員会との連携については市町村ごとに違うので、管理職に確認しましょう。



4月下旬まで

① 保護者向けリーフレットの配布

入学前の保護者説明会や4月のPTA総会で、通級による指導についての説明を行い、保護者用リーフレットを配布する。



様式・資料集 保護者向けリーフレット

5月以降

② 電話等による教育相談の受付



③ 生徒・保護者との教育相談

学級担任や学年主任、特別支援教育コーディネーターが対応し、通級による指導を希望する生徒・保護者と教育相談を行う。生徒のつまずきや保護者の要望を確認する。

④ 校内支援委員会に向けて原案作成

生徒・保護者との教育相談の内容を基に、特別支援教育コーディネーター、通級指導担当教員、学級担任等で、校内支援委員会での協議に向けて、特別の教育課程の原案づくりを行う。



P.18 入級の判断



様式・資料集 特別な教育支援を必要とする児童生徒のチェックリスト

⑤ 校内支援委員会での検討

教育相談の内容や生徒・保護者の要望について、校内支援委員会の先生方と情報の共有を行い、指導の可否、指導内容について協議する。また、週(月)に指導を行う回数や、教育課程に加えて実施するか、一部に替えて実施するか等の、特別の教育課程の編成について協議する。

⑥ 生徒・保護者との合意形成

通級による指導を行うことが決まった場合、再び生徒・保護者と面談し、通級による指導の進め方について共通理解を図る。生徒や保護者の希望も確認し、可能な限り尊重する。



P. 20 校内連携・保護者連携

⑦ 通級による指導開始の決定(校長), 市町村教育委員会への連絡 等

⑧ 自立活動の「個別の指導計画」作成, 教育課程の編成 等

個別の指導計画の作成については、通級指導担当教員、学級担任、特別支援教育コーディネーターなど複数の教員が作成に携わる。作成後、校内支援委員会で承認を得る。



P. 24～ 実践編

⑨ 生徒・保護者との教育相談, 個別の教育支援計画や個別の指導計画の承認

学級担任、学年主任、通級指導担当教員等が同席し、生徒や保護者に対して、個別の教育支援計画や個別の指導計画について説明し、承認を得る。また、通級による指導で授業を抜ける場合、担任から周囲の生徒にどのように説明するかを相談する。



⑩ 通級による指導の開始



個別の指導計画作成は、通級による指導と並行して作成することも考えられます。また、年度途中に通級による指導が始まることもあるため、臨時の校内支援委員会を開催することもあります。管理職や特別支援教育コーディネーターの先生と相談しながら進めましょう。





通級指導教室に入級するかどうかの判断はどうすればよいのでしょうか？

知識・概論編にもありますが、通級による指導を実施するかどうかの判断においては、生徒自身や保護者の意向も確認しながら、医学的な診断の有無のみにとらわれないよう留意し、総合的に判断する必要があります。

入級判断の一つとして、下のような3種類の「児童生徒理解に関するチェックリスト」を使って、どのような特性を持つ生徒なのかを把握する方法があります。チェックリスト A は「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」などの学習面、B は「不注意」「多動性-衝動性」などの行動面、C は「対人関係やこだわり等」の行動面になっています。



様式・資料集 特別な教育的支援を必要とする児童生徒のチェックリスト

◇チェックリスト A 学習面(「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」)

	観 点	観 点		
		ない 0点	時々ある 1点	ほぼある 2点
1	集中力がある(授業中の発言や質問など)			
2	聞きもしがめる			
3	質問・書かれたものを確認するが、得意げで得意			
4	指示の理解が難しい			
5	読み・書きが難しい(読み・書きの順序が分からない、途中で止めてしまう)			
6	算数・算理が難しい(計算の順序が分からない、途中で止めてしまう)			
7	ことばのつづきやことばのつながりが分からない			
8	一語一語の意味が分からない(文章の意味が分からない)			
9	長い文章や長い文章が読めない(文章の構造が分からない)			
10	内容をわかりやすく伝えることが難しい			
11	早く読んで書く(字が小さく、読みが速い)			
12	自分の意見や考えが伝わりやすい(自分の考えが伝わりやすい)			
13	文章が長い			
14	文章の構成が分からない(文章の構成が分からない)			
15	文章の構成が下手(文章の構成が下手)			
16	字が読めない(字が読めない)			
17	字が読めない(字が読めない)			
18	字が読めない(字が読めない)			
19	字が読めない(字が読めない)			
20	字が読めない(字が読めない)			
21	字が読めない(字が読めない)			
22	字が読めない(字が読めない)			
23	字が読めない(字が読めない)			
24	字が読めない(字が読めない)			
25	字が読めない(字が読めない)			
26	字が読めない(字が読めない)			
27	字が読めない(字が読めない)			
28	字が読めない(字が読めない)			
29	字が読めない(字が読めない)			
30	字が読めない(字が読めない)			
段階別の点数(評価点×該当数)		点①	点②	点③
総合計 (①+②+③+④)		点		

◇チェックリスト B 行動面(「不注意」「多動性-衝動性」)

	観 点	観 点		
		ない 0点	時々ある 0点	しばしばある 1点
1	学校の授業で、聞かなくても勝手に話を聞いたり、不注意で話を聞いたりする			
2	課題や遊びの活動で注意を集中し続けることが難しい			
3	周りと関わって話しかけられているのに、聞いていないように見える			
4	指示に従えず、また仕事を最後までやり遂げない			
5	学習課題や活動を順番立てて行うことが難しい			
6	集中して努力を続けなければならない課題(学校の勉強や宿題など)を遂行する			
7	学習課題や活動に必要な物をなくしてしまう			
8	気が散りやすい			
9	口々の活動で忘れっぽい			
10	手足をそのほか動かしたり、着席していても、もしもしたりする			
11	授業中や座っているべき時に席を離れる			
12	きちんとしていない行動(歩き回り、話さず走り回り、走り回ったりする)			
13	遊びや余暇活動に大人しく参加することが難しい			
14	じっとしてない、または何かに走り回られるように活動する			
15	過度にしゃべる			
16	質問が終わらない内にしつこく答えてしまう			
17	順番を待つのが難しい			
18	他の人がしていることをさきあたり、しゃべったりする			
段階別の点数(評価点×該当数)		点①	点②	点③
総合計 (①+②+③+④)		点		

◇チェックリスト C 行動面(「対人関係やこだわり等」)

	観 点	観 点		
		いい 0点	多少 1点	悪い 2点
1	大人びている、まじめである			
2	みんなから、「○○先生」「○○先生」と呼ばれている(別名やニックネーム)			
3	他の子どもが興奮を知らないようなことに興味があり、「自分だけが興奮を覚える」ことがある			
4	特定の分野の知識を蓄えているが、基礎知識が乏しい、高次元の思考が苦手である			
5	興味が異なる言葉や表現を言われても分からず、言葉通りに受け取ることが多いことがある			
6	会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話し、問合いが散らかることもある			
7	言葉を繰り返すことで、自分だけが分かるような活動を好む			
8	挨拶や声かけを嫌うことがある			
9	誰かに何かを伝える目的がなくても、場面に関係なく声を出す(おしゃべり、喋り、他人を驚かす、叫ぶ)			
10	とても得意なことがある一方で、嫌いな、得意でないものがある			
11	色々なことを話すが、その時の場面や相手の感情や立場を考慮しない			
12	共感がない			
13	周りの人が困るようなことも、配慮しないで言うてしまう			
14	感情が爆発することがある			
15	友達と仲良くしたいという気持ちがあるけれど、友達関係をうまく築けない			
16	友達とのまじはいるが、一人で遊んでいる			
17	仲の良い友人が少ない			
18	友達に話さない			
19	課外活動やゲームをする時、仲間と協力することに考えが及ばない			
20	作業やジョブリーダーが不慣れで、できないことがある			
21	意図的でなく、誤解を生かすことがある			
22	ある行動や考えに固執することによって、簡単な日常の活動ができなくなることもある			
23	自分だけの独特な言葉や表現があり、変更や変化を嫌がる			
24	特定の物に執着がある			
25	他の子どもたちから、いじめられることがある			
26	特定の習慣をしていることがある			
27	特定の習慣を嫌うことがある			
段階別の点数(評価点×該当数)		点①	点②	点③
総合計 (①+②+③)		点		

※①を0点、②を1点にして計算する。
※少なくとも一つの領域で合計6点以上をカウントした場合「不注意」「多動性-衝動性」に問題がある。
※「ときどきある」「しばしばある」等の観点は、程度差を示す。



チェックリストで点数が高かった場合、入級が適切と考えてよいのですか？

チェックリストの結果はあくまで一つの目安です。一部の授業に替えて通級による指導を行う場合、その授業を受けられないこととなります。合理的配慮を提供し、通常の学級で学ぶ方が生徒にとってよい場合もあるので、入級の判断は、生徒自身や保護者の意向も踏まえ、校内支援委員会において複数の教員で慎重に行いましょう。





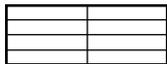
通級指導教室の環境整備はどうすればよいのでしょうか？

通級指導教室の設置場所については、学校事情によりますが、他の生徒の目が届きにくい場所や比較的静かな場所に設置するなど、配慮が必要です。空き教室がない場合は、予約が入っていない日にカウンセリングルームで行うなど、工夫が必要です。

下の図は、通級指導教室の学習環境の例です。生徒の特性によって様々な配慮が必要となるので参考にしてください。また、この他にも個別の配慮が必要となる場合もあるので、生徒と相談しながら、リラックスして学べる環境づくりを心掛けましょう。



レターケースに印刷したプリント類を入れておき、いつでも使えるようにしておくとし便利。また、プリンタがあると、PC やタブレット端末を使った授業の際にすぐに印刷できる。

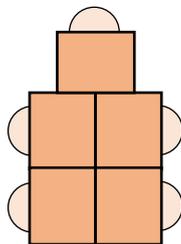


教室でのルールや授業の流れなどを掲示し、視覚化を図る。ただし、必要なもの以外は貼らないようにする。

カーテンやつい立てなどで目隠しをしてあると、安心して学習に取り組める。



可動式ホワイトボード



グループ指導が必要な場合は机を複数配置する。また、先生が生徒の正面に座らないよう配慮する。

見通しを持ったり予定を確認したりできるよう、カレンダーや行事予定などを掲示しておく。

出入口

出入口

気持ちを落ち着かせるためのクールダウンスペースを設置する。

学習に集中できない生徒用の壁向きの机

この他にも、口頭の指示だけでは理解するのが困難な生徒に、指示を視覚化する、光や音に敏感な生徒に、教室を暗くしたり音を遮断したりするなど、障害種別ごとの配慮が必要です。「障害に応じた通級による指導の手引」にも障害種別ごとの教室環境の整備が記載されているので、参考にしてください。



平成29年度研究成果物「児童生徒の理解と支援のための研修パック」



先生方とどのように連携していけばよいのでしょうか？

学級担任や各教科担任に、通級指導教室で学んだことが通常の学級で生かされているか、生徒自身の困難の克服・改善につながっているか等を確認するなど、日常的に情報交換を行うことが大切です。また、他の教職員にも情報が伝わるよう、指導の記録シートを回覧したり、会議等で情報交換をしたりしましょう。「報告・連絡・相談」の意識を常に持つとよいですね。



運営編

教科担任との連携

- ・通級による指導の内容について情報提供
- ・通常の学級における学習の進捗の確認
- ・授業中の生徒の様子についての情報交換

学級担任との連携

- ・通級による指導の内容について情報提供
- ・通常の学級における生活の様子について情報交換

通級指導担当教員

保護者との連携

- ・通級指導教室での学習内容や生徒の成長に関する事等について情報交換
- ・学校への意見、要望等の聴取
- ・定期的な教育相談による情報交換

➡ 様式・資料集 保護者連絡シート

他の教職員との連携

- ・職員会議、学年部会、生徒理解会議等で通級による指導の内容や生徒の変容について報告
- ・今後の指導についての確認
- ・生徒の学校生活全般についての情報交換

➡ 様式・資料集 指導の記録シート

通級指導教室に通う生徒の生活の様子を知るため、教科の授業や昼食の時間、部活動での様子を参観することも大切です。ただし、教室に来られるのを嫌がる生徒もいますので、あらかじめ参観しに行くことを伝えてからにしましょう。また、通級指導教室での授業を学級担任や各教科担任が参観し、生徒理解に努めることも必要ですね。



たくさんの先生方と協力して指導していくことが、生徒のよりよい成長につながるのですね。

通級指導担当教員だけでなく、他の教職員も大切な役割を担っています。



先生方の主な役割



※発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドラインより抜粋



校内研修編

特別支援教育コーディネーター



- 学校内の関係者や教育、医療、保健、福祉、労働等の関係機関と連絡調整、保護者との関係づくりを推進する。
 - ・ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等、学校内の専門スタッフとの連絡調整役
 - ・ ケース会議の開催 ・ 通級指導担当教員への支援 ・ 外部の関係機関との連絡調整
 - ・ 保護者に対する相談窓口 ・ 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成

学級担任



各教科担任



- 自身の学級に教育上特別の支援を必要とする児童生徒がいることを常に想定し、学校組織を活用し、児童等のつまずきの早期発見に努めるとともに、行動の背景を正しく理解する。
- 通常の学級において、教育上特別の支援を必要とする児童等に対して適切な指導や必要な支援をするとともに、温かい学級経営及び分かりやすい授業を心がける。
 - ・ 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と見直し(学級担任)
 - ・ 進級及び進学時における教員、校種間の引継ぎ(学級担任)
 - ・ 周囲の児童等と、その保護者への理解啓発(学級担任)
 - ・ 全ての児童等にとって分かりやすい授業(各教科担任)

通級指導担当教員



通級による指導の充実に向けて、先生方のご協力をお願いします！

- 校内の教育支援体制の整備に当たって、専門的な見地から助言を行う。
 - ・ 通級による指導を受ける必要のある児童等を早期に発見 ・ 児童等への指導
 - ・ 通常の学級の担任と連携した児童等への支援 ・ 特別支援教育コーディネーターとの連携

養護教諭



- 養護教諭は、各学校の特別支援教育の校内体制の中で、児童等の心身の健康課題を把握し、児童等への指導及び保護者への助言を行うなど、重要な役割を担う。
 - ・ 児童等に寄り添った対応や支援 ・ 学校医への相談及び医療機関との連携



保護者とはどのように連携を図ればよいのでしょうか？

月1回や学期に1回、保護者連絡シートを活用し、通級指導教室での学習内容や取り組みの様子、在籍学級での授業や生活にどう生かされているかなどを伝えましょう。教育相談や授業参観の際に直接保護者と話したり、電話で定期的に情報交換をしたりすることも大切です。また、家庭での生徒の様子について連絡シートに記入することや、生徒の努力や成長を積極的に褒めることをお願いするとよいですね。



様式・資料集 保護者連絡シート



保護者から通級による指導に関する教育相談の申し込みがあった場合、注意すべきことはありますか？

子供を通級指導教室に通わせることに戸惑いや不安を感じている保護者もいます。通級指導担当教員はそのような気持ちを十分にくみ取り、保護者が安心して相談できる雰囲気づくりに努めましょう。保護者の願いや気持ちを受け止め、「協力して一緒に育てていきましょう！」という姿勢を見せることが信頼関係の構築につながります。また、保護者と話をする際、生徒の課題や気になるところばかり話してしまいがちです。生徒のよい面を認めつつ、入級に関する話を進めると保護者の不安も軽減されると思います。



学校側から保護者に教育相談を提案する場合、注意すべきことは何ですか？

保護者への伝え方に注意しましょう。「教科の先生が困っています」など、指導する側の目線で話をするのではなく、「お子様が〇〇で困っているようです。なんとかしてあげたいのですが・・・。」という生徒の目線で話を進めることが大切です。そのためにも、学級担任や養護教諭など生徒が相談しやすい立場の先生が、本人の悩みをじっくりと聞くようにしましょう。さらに、一度の教育相談で入級について決定するのではなく、本人の意思も確認しながら、時間を掛けて進めましょう。

また、誰が保護者に伝えるかについても配慮が必要です。学級担任が通級による指導を勧めたところ、保護者との信頼関係が崩れてしまったというケースがあります。学校側から通級による指導についての話をする際は、管理職や特別支援教育コーディネーターと相談し、いつ、誰が、どのように伝えるか、保護者との面談ではどこまで話を進めるかなどを決めてから、保護者にアプローチするようにしましょう。





小学校とは、どのような連携を図る必要がありますか？

小学校のときに通級による指導を受けていた場合は、中学校入学前の引き継ぎの際に、小学校での個別の指導計画など、その生徒に関する情報が得られると思います。また、可能な限り小学校のときの学級担任や通級指導担当教員と連絡を取り合い、直接詳しい情報を聞くことをお勧めします。もし、入学前に小学校での通級による指導を参観する機会があれば、積極的に活用しましょう。



高等学校に進学する際は、どのような連携を図る必要がありますか？

指導の内容や結果は、指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」欄に記載、もしくは指導要録に個別の指導計画の写しを添付します。進路先には、指導要録の写しに加え、個別の教育支援計画や個別の指導計画を引き継ぐこととなります。引き継ぐ際には、事前に生徒と保護者の同意を得るなど、個人情報の取扱いに十分留意する必要があります。さらに、高等学校によっては、入学前に生徒についての情報交換の場を設ける学校もあるので、生徒の特性や通級による指導の指導内容について、しっかり伝えましょう。



➡ P.7 知識・概論編 自立活動の指導

【指導要録記載例】

LD等通級 R2.6.18～R3.3.16 計28回

自分に合った学び方を習得し、漢字を読み書きすることに自信を持てるようになった。また、タブレット端末を活用して、既習漢字を正しく用いて文章を作れるようになった。

学年・組 (担任名)	1年 1組 (〇〇 〇〇)	2年 組 ()	3年 組 ()
生徒氏名	通級 マリ	性別	女
保護者氏名	通級 守	住所・TEL	宮城県××市△△△△△1-4
諸 検 査	検査年月日 H30.〇.〇	検査名 WISC-IV	実施機関 〇〇〇病院
検査結果	FSIQ××、VCI〇〇、PRI△△、 WMI□□、PSIQ〇〇		
行動や認知の 特性・課題	・目で見て理解する力が高いが、耳で聞いて理解する力が弱い。 ・小学4年生の時に読み書き障害の診断を受けている。		
生活の様子	得意なこと 好きなこと	・するべきことを目で確かめると、行動することができる。 ・手本を見せると模倣できる。 ・自分の考えを言葉で表現することができる。	
不得意なこと 苦手なこと	・漢字の読み書きが苦手。 ・漢字を使って文章を書くことが苦手。 ・形の似ているアルファベットに間違いが多い。		
生徒・保護者の 願い	生徒	・中学生になったので、もっと勉強を頑張りたい。 ・英語の勉強が分かるようになりたい。	
保護者	・漢字の読み書きができるようになってほしい。 ・高校入試を見据えて、家庭学習の習慣が付いてほしい。		
具体的な支援	家庭	学校	医療・その他関係機関
	・一緒に新聞を読む機会を設ける。読めない漢字があったら読み方を教える。	・通級による指導を週1回行う。 ・指示は可視化する。 ・読めない漢字があったら読み方を教える。	
合理的配慮	・定期テストは、ルビ付き用紙を使用する。		

学年・組	1年 1組	生徒氏名	通級 マリ	作成者		学級担任	
生徒・保護者の 願い	生徒:中学生になったのでもっと勉強を頑張りたい。英語の勉強が分かるようになりたい。 保護者:漢字の読み書きができるようになってほしい。						
年間指導目標	・自分に合った学び方を習得し、小学校4年生の漢字やアルファベットを正しく用いて、文を書くことができる。(健・心・環) ・タブレット端末の使い方を習得し、正しい漢字を使って自分の考えを文章で表現できる。(健・心・環)						
指導目標	1学期	2学期	3学期				
指導内容	・自分に合った漢字の覚え方を知り、習得した漢字を正しく用いて、短文を作ることができる。 ・形が類似しているアルファベットの違いを見分け、正しく書くことができる。 ・漢字の構成要素を分解して部首を見たり、再構成して漢字の全体を捉えたりする。 ・タブレット端末を活用し、同音異義語に注意して短文を作成できるようにする。 ・英語4群様を使ってアルファベットを書けるようになる。 ・週1時間の指導を行う。						
進捗の把握の 方法、配慮事項	・教科書の読み間違い、漢字には、教師が読み方を教えて本人が振り仮名を振るようにする。 ・教室の座席は前方にし、集中して授業を受けられるようにする。 ・ノートにアルファベット表を貼り、忘れるときには見ることができるよう配慮する。						
評価	通級指導教室	通常	学級				
	・漢字の構成要素に分解して学習することで、漢字の細部に注意し、4年生の漢字を40字程度正しく書けた。 ・タブレット端末を活用し、漢字や熟語の意味を考えながら、同音異義語を正しく使用して短文を作ることができた。 ・多感量を使ってアルファベットを覚えたことで、形や向きに注意して書けるようになった。	・振り仮名を振ることに抵抗がなくなり、分からない漢字は自分から聞いたり調べたりするようになった。 ・アルファベット表をノートに貼ったことで、自分で確かめられるようになり、間違いが減った。赤ペンで直されなくなったことを喜んでた。					
次年度に 向けて							

3 実践編



通級による指導の授業づくりについて知りたい

- 通級による指導モデルケース (漢字を正しく用いて文章を書くことが苦手な生徒)
 1. モデルケースの見方・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
 2. 情報収集シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
 3. 自立活動の「個別の指導計画」作成のための流れ図・・・・・・・・・・ 27
 4. 自立活動の「個別の指導計画」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
 5. 授業展開例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
 6. 学習振り返りシート・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
 7. 指導の記録シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
 8. 保護者連絡シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
 9. 自立活動の「個別の指導計画」の評価・改善・・・・・・・・・・ 40
 10. 個別の教育支援計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
- 自立活動指導例
 1. 計算に困難を抱えている生徒・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
 2. 図形の問題やグラフの読み取りが苦手な生徒・・・・・・・・・・ 46
 3. 感情のコントロールが苦手で、トラブルをよく起こす生徒・・・・・・・・ 50
 4. 自己表現することが苦手で、欠席が増えてきている生徒・・・・・・・・ 54
 5. 場の空気が読めず、対人関係に困難がある生徒・・・・・・・・・・ 58

通級による指導 情報収集シート

令和2年5月24日作成

年	組	氏 名	通級指導担当
1	1	通級 マリ	森村 ミユ

※上記の生徒について、以下の観点で、できていること、できていないことを記入してください。

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| ・基本的な生活習慣など日常生活に関すること | ・気持ちや情緒のコントロールに関すること |
| ・集団参加や対人関係に関すること | ・身体の動きに関すること |
| ・1対1でのコミュニケーションに関すること | ・学習に関すること |
| | ・その他 |

教科等	担当者	できていること	できていないこと
記入例	〇〇〇〇	・計算問題は正確にできる。 ・どんなことにも進んでチャレンジする。 ・運動神経が良く、部活動を頑張っている。	・話の内容が理解できないことが多い。 ・衝動的な行動が原因で友達とトラブルになる。 ・忘れ物が多い。
国語	〇〇〇〇	・漢字に振り仮名を振ると、読むことができる。 ・自分の考えを言葉で表現できる。	・形が類似した漢字に書き間違いが多い。 ・文章表現するときは、平仮名が多い。 ・教科書の内容を理解するのが難しい。
社会	〇〇〇〇	・資料を見て分かったことを発表している。	・板書をノートに書き写すが、間違いが多い。 ・漢字が読めず、教科書の内容を理解するのが難しい。
数学	〇〇〇〇	・正負の数の計算ができる。 ・板書をノートに書き写すことができる。	・文章問題が苦手。
理科	〇〇〇〇	・観察した花を正確にスケッチした。	・分かったことを文章で表すが、平仮名が多い。
音楽	〇〇〇〇	・アルトリコーダーに興味を示し、運指に気を付けて演奏している。	・話した指示が正確に伝わらないことがある。
美術	〇〇〇〇	・作品作りを楽しんでいる。	
保体	〇〇〇〇	・手本を見せると模倣できる。	
技・家	〇〇〇〇	・作品の完成形に興味深そうに見ていた。	
英語	〇〇〇〇	・絵カードを見せると英単語を理解し、発音できる。	・形が類似したアルファベットに書き間違いが多い。 ・英単語と英単語の間にスペースを置かないで書いてしまう。
学級	〇〇〇〇	・身だしなみが整っている。 ・生活リズムが整っている。 ・学校行事など、集団での活動に参加できる。 ・特定の友達と共通の話題で会話ができる。 ・係や委員会の仕事には責任を持って取り組むことができる。 ・提出物は必ず期限内に提出している。	・教師の口頭での指示の後には、友達の動きを見てから行動することが多い。
部活動	〇〇〇〇	・気持ちのよい挨拶ができる。 ・友達2人と行動を共にしていることが多い。 ・集中して先輩のプレーを見ている。	
保健室	〇〇〇〇		・けがの状況を紙に書かせたら、ほとんど平仮名だった。



自立活動の「個別の指導計画」ってどのように作成すればいいのでしょうか…？

【流れ図記入の手順】

- ① 収集した情報の整理 その1
- ② 収集した情報の整理 その2
- ③ 指導すべき課題の抽出と背景要因の検討
- ④ 生徒の強みや長所の抽出
- ⑤ 中心的な課題の設定
- ⑥ 年間指導目標の設定
- ⑦ 指導目標の達成のために必要な項目の選定
- ⑧ 具体的な指導内容の設定
- ⑨ 通常の学級における配慮事項の検討

自立活動の「個別の指導計画」作成のために、「流れ図」を使ってみましょう。流れ図とは、情報収集から指導内容を決めるまで流れを示したもので、個別の指導計画の根拠となるものです。一つの例として左のような手順を紹介します。これから、通級マリさんの個別の指導計画作成のための流れ図を詳しく説明しますので、参考にしてください。



①収集した情報の整理 その1 ～ ⑤中心的な課題の設定

まず、「情報収集シート」を使って先生方から集めた生徒の情報を整理します。①では、生徒のできることとできないことを自立活動の区分に即して整理します。6区分に分けているのは障害名のみで判断して特定の指導内容に偏ることがないように、生徒の全体像を捉えて整理するためです。どの区分にも属さない情報は、その他に記入します。



① 収集した情報の整理 その1（6区分の窓を通して）

6区分	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
区分の説明	生命を維持し、日常生活を行うために必要な健康状態の維持・改善を身体的な側面を中心として図る観点	自分の気持ちや情緒をコントロールして変化する状況に適切に対応するとともに、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服する意欲の向上を図り、自己のよさに気付く観点	自他の理解を深め、対人関係を円滑にし、集団参加の基盤を培う観点	感覚を有効に活用し、空間や時間などの概念を手掛かりとして、周囲の状況を把握したり、環境と自己との関係を理解したりして、的確に判断し、行動できるようにする観点	日常生活や作業に必要な基本動作を習得し、生活の中で適切な身体の動きができるようにする観点	場や相手に応じて、コミュニケーションを円滑に行うことができるようにする観点
できること	○身だしなみが整っている。 ○生活リズムが整っている。	○自分の考えを言葉で表現できる。	○学校行事など、集団での活動に参加できる。	○正負の数の計算ができる。 ○理科で観察した花を正確にスケッチした。	○板書をノートに書き写すことができる。 ○体育では、手本を見せると模倣できる。	○気持ちのよい挨拶ができる。 ○特定の友達と共通の話題で会話ができる。
できないこと		●教師の口頭での指示の後には、友達の動きを見てから行動することが多い。		●形が類似した漢字やアルファベットに書き間違いが多い。 ●文章表現するときは、平仮名が多い。		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ卓球部の友達2人と行動を共にしていることが多い。 ・係や委員会の仕事には責任を持って取り組むことができる。 ・提出物は必ず期限内に提出する。 					

②では、学習上又は生活上の困難の視点、これまでの学習状況の視点、数年後の姿の視点といった、①とは別の視点で情報を整理します。小学校からの引き継ぎ事項、生徒や保護者の願いも記入しながら情報を整理します。個別の教育支援計画も参照しながら記入していきましょう。



② 収集した情報の整理 その2 (学習上又は生活上の困難の視点, これまでの学習状況の視点, 数年後の姿の視点)

小学校や前年度からの引継事項	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生のときに読み書き障害の診断を受けている。 ・6年生から通級による指導を受けている。 ・漢字の読み書きは, 3年生程度である。(小学校1年生の後半に漢字の学習が始まってから困難をきたすようになった。) ・図工の作品づくりが得意だった。(完成作品を見て作品を作っていた。) ・四則計算・分数・小数の計算ができる。 ・簡単な図形の問題は解ける。 ・6年生のときの通級による指導の年間指導目標 「3年生までに学習した漢字を正しく読み書きできる。」 「話を聞き, 教師の問いに正しく答えることができる。」 ・通級指導教室では, 漢字の読み書き指導に重点を置いて指導し, 定着するように反復練習やゲームを取り入れてきた。漢字の読み書きは定着しつつあるが, 作文の中で漢字を使用するのは難しいようである。また, 聞くことに関しては, 聞いた話の簡単な内容についての問いに正しく答えられるようになり, 集中して話を聞くことができるようになった。 ・通常の学級では, 読み方が分からない漢字には, 教師が読み方を教えて本人に振り仮名を振るように指導していた。音読ができるようになったら振り仮名を消す約束にしていた。
生徒の願い 保護者の願い	<p>生徒: 中学生になったのもっと勉強を頑張りたい。英語の勉強が分かるようになりたい。</p> <p>保護者: 漢字の読み書きができるようになってほしい。高校入試を見据えて, 家庭学習の習慣が付いてほしい。</p>
収集した情報の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・形が類似した漢字に書き間違いが多く, 文章表現は平仮名表記になっている。 ・形が類似しているアルファベットの書き間違い多くて困っている。 ・小学校での通級による指導により, 小学3年生までの漢字は読み書きできると捉え, 中学校では, 小学4年生の漢字の読み書きから指導を始める。 ・漢字を使って文章を書くことが困難である実態から, 卒業までに常用漢字の読み方を身に付け, タブレットを使用しながら, 漢字を用いて自分の考えを文章で表せることで, 書くことへの困難さを軽減し, 学習への意欲を向上させることができる。



情報を整理するだけでも, 観点がいくつかあるのですね。

ここで整理したことが, このあとの指導すべき課題や指導目標を設定する場面で生きてきます。複数の先生で話し合いながら行うとよいでしょう。

次の③では, ①②で整理した情報の中から課題となることを抽出し, その背景要因を「~かも」の形で記入します。右の図は「冰山モデル」で, 生徒の見えている姿を氷山の一角と捉え, さらに水面下に隠れている部分, すなわち背景要因にも目を向けることを指します。③では指導すべき課題と背景要因を氷山に見立てて記入します。生徒の抱える課題には様々な要因が隠れていて, そこに目を向けることが大切です。また, ④では生徒の強みや長所について抽出します。背景要因や強みにも目を向けることが, 生徒の困難を改善していくための指導内容を考えるヒントになります。



③ 指導すべき課題の抽出と背景要因の検討(①②から, 指導すべき課題を抽出し, その背景要因に目を向ける)

指導すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の口頭での指示の後には, 友達の動きを見てから行動することが多い。 ・体育では, 手本を見せると模倣できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章表現するときは, 平仮名が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形が類似した漢字やアルファベットに書き間違いが多い。
背景要因	<ul style="list-style-type: none"> ・気になることやものがあるかも。 ・話に集中できなくなるのかも。 ・耳で聞くだけではなく, 目で確認すると理解できるのかも。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を正しく覚えていないのかも。 ・漢字の間違いを恐れているのかも。 ・漢字の形と読みが一致していないのかも。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目で全体像を捉えているが, 細部まで注意が届いていないのかも。

④ 生徒の強みや長所の抽出(⑦の具体的な指導内容を設定する際に強みや長所を生かせるようにする)

生徒の強みや長所	<ul style="list-style-type: none"> ・すべきことを目で確かめると、行動することができる。 ・手本を見せると模倣できる。 ・自分の考えを言葉で表現することができる。
----------	---



見えている課題だけでなく、その背景要因を考慮ことや、生徒の強みも考えることが大事なのですね。

⑤では、③で抽出した指導すべき課題から、生徒の中心的な課題を導き出します。中心的な課題とは、その生徒の課題の根本となるものです。



⑤ 中心的な課題の設定(③から中心となる課題を導き出す)

中心的な課題	<ul style="list-style-type: none"> ・全体像の中から注目すべき場所を選択して見るができるようになる。(心・環) ・自分に合った学び方を習得し、漢字やアルファベットを正しく使って文を書くことができる。(健・心・環)
--------	---

ここまでで、生徒の中心的な課題が導き出されました。次からは、指導目標や指導内容を決定していきます。



⑥年間指導目標の設定 ～ ⑧具体的な指導内容の設定

⑥では、⑤に基づいて今年度の指導目標を設定します。年間指導目標は、自立活動の「個別の指導計画」に記載されるとともに、学期ごとの指導目標を決める際の基となるものです。年間指導目標のような長期的な目標や、学期ごとの短期的な目標を定めることが、自立活動の指導の効果を高めることにつながります。



⑥ 年間指導目標の設定(⑤から今年度の指導目標を設定する)

年間指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った学び方を習得し、小学校4年生の漢字やアルファベットを正しく用いて、文を書くことができる。(健・心・環) ・タブレット端末の使い方を習得し、正しい漢字を使って自分の考えを文章で表現できる。(健・心・環)
--------	--

最後に、具体的な指導内容を設定します。⑦では、⑥の年間指導目標を達成するために必要な項目を自立活動の内容6区分27項目の中から選定します。選定する際は、指導すべき課題全てについてではなく、⑥の年間指導目標に関わるものだけを選びます。項目を選ぶ際は、「様式・資料集」にある「学習指導要領における自立活動の内容」に詳しい説明があるので参考にとよいでしょう。



様式・資料集 学習指導要領における自立活動の内容

⑦ 年間指導目標の達成のために必要な項目の選定(⑥に関わるもののみ選ぶ)

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成に関すること	情緒の安定に関すること	他者とのかかわりの基礎に関すること	保有する感覚の活用に関すること	姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること	コミュニケーションの基礎的能力に関すること
(2)	病気の状態の理解と生活管理に関すること	状況の理解と変化への対応に関すること	他者の意図や感情の理解に関すること	感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること	姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関すること	言語の受容と表出に関すること
(3)	身体各部の状態の理解と養護に関すること	障害による学習又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	自己の理解と行動の調整に関すること	感覚の補助及び代行手段の活用に関すること	日常生活に必要な基本動作に関すること	言語の形成と活用に関すること
(4)	障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること		集団への参加の基礎に関すること	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること	身体の移動能力に関すること	コミュニケーションの手段の選択と活用に関すること
(5)	健康状態の維持・改善に関すること			認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること	作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	状況に応じたコミュニケーションに関すること

⑧ 具体的な指導内容の設定

(⑦で選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定する。⑦で選定した項目を線でつなぐ)

指導内容 (週1回)	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を構成要素に分解したり再構成したりして、正しく漢字の読み書きができるようにする。→ 指導例 P. 34 通常の学級の授業で書いたノートを生徒と一緒に見直し、漢字が正しく使われているかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 書くことの抵抗を減らすためにタブレット端末の活用方法を習得する。 タブレット端末を活用し、漢字を正しく使って作文できるようにする。→ 指導例 P. 35 	<ul style="list-style-type: none"> 多感覚を働かせ、注意すべき点を具体的に視覚化することで、アルファベットを正しく書けるようにする。→ 指導例 P. 36 日本語と英文の書き方の違いに気付き、語と語の区切りに注意してスペースを置き、それを意識しながら書くことができるようにする。→ 指導例 P. 36
---------------	--	---	---

⑨ 通常の学級における配慮事項の検討(通常の学級で配慮すべきことを考える)

通常の学級における配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の読めない漢字には、教師が読み方を教えて本人が振り仮名を振るようにする。 教室の座席は前方にし、集中して授業を受けられるようにする。 ノートにアルファベット表を貼り、忘れたときには見ることができるよう配慮する。
---------------	--

⑧では、具体的な指導内容を設定します。設定に当たっては、主体的に取り組む指導内容、改善・克服の意欲を喚起する指導内容、発達の進んでいる側面を更に伸ばすような指導内容、自ら環境を整える指導内容、自己選択・自己決定を促す指導内容、自立活動を学ぶことの意義について考えさせるような指導内容、などを踏まえて検討します。また、③で抽出した生徒の強みや長所を生かすような指導内容にすると、生徒の主体性や自己肯定感の高まりが期待できます。さらに、それぞれの指導場面を記入します。最後に、指導内容と選定した項目を線でつなげましょう。

⑨では、通常の学級での配慮について検討し、記入します。

以上で「流れ図」の説明は終了です。この後、自立活動の「個別の指導計画」を作りますが、⑧、⑨を基にして、「学期の指導内容」と「学期の通常の学級での配慮事項」を検討し、記入します。



分かりました。この例を参考にして、他の生徒でも「流れ図」を使って自立活動の「個別の指導計画」を作成してみます。





複数で

自立活動の「個別の指導計画」

令和2年6月7日作成

学年・組	生徒氏名	通級	保護者
1年 1組	通級 マリ		

流れ図を参考に、生徒や保護者の願い、年間指導目標を記入します。

生徒・保護者の願い	生徒：中学生になったのもっと勉強を頑張りたい。英語の勉強が分かるようになりたい。 保護者：漢字の読み書きができるようになってほしい。		
年間指導目標	・自分に合った学び方を習得し、小学校4年生の漢字やアルファベットを正しく用いて、文を書くことができる。(健・心・環) ・タブレット端末の使い方を習得し、正しい漢字を使って自分の考えを文章で表現できる。(健・心・環)		
	1学期	2学期	3学期
指導目標	・自分に合った漢字の覚え方を知り、習得した漢字を正しく用いて、短文を作ることができる。 ・形が類似しているアルファベットの違いを見分け、正しく書くことができる。		
通級指導教室での指導内容	・漢字の構成要素を分解して細部を見たり、再構成して漢字の全体を捉えたりする。 ・タブレット端末を活用し、同音異義語に注意して短文を作成できるようにする。 ・英語4野線を使ってアルファベットを書けるようにする。 ・週1時間の指導を行う。		
通常、又は、配慮事項	・教科書の読めない漢字には、教師が読み方を教えて本人が振り仮名を振るようになる。 ・教室の座席は前方にし、集中して授業を受けられるようにする。 ・ノートにアルファベット表を貼り、忘れたときには見ることができるよう配慮する。		
評価	通級指導教室	・漢字を構成要素に分解して学習することで、漢字の細部に注意し、4年生の漢字を40字程度正しく書けた。 ・タブレット端末を活用し、漢字や熟語の意味を考えながら、同音異義語を正しく使用して短文を作ることができた。 ・多感覚を使ってアルファベットを覚えたことで、形や向きに注意して書けるようになった。	
	通常の学級	・振り仮名を振ることに抵抗がなくなり、分からない漢字は自分から聞いたり調べたりするようになった。 ・アルファベット表をノートに貼ったことで、自分で確かめられるようになり、間違いが減った。赤ペンで直されなくなったことを喜んでた。	

年間指導目標を参考に、学期ごとの目標を記入します。

通級による指導の指導内容と、在籍学級での生活や授業中の指導内容を記入します。

学期の終了ごとに、指導の評価を行います。次学期の指導目標や指導内容も考え、2学期の欄に記載します。

実践編

次年度に向けて



P.40 自立活動の「個別の指導計画」の評価・改善



50分間の授業の流れはどのようにすればいいのですか？

下の【指導過程の例】のように、生徒に授業の見通しを持たせる時間、めあてを決める時間、学習の振り返りの時間も含めて50分間の流れを組み立ててみてください。



【指導過程の例】

	学習過程	指導上の留意点
導入	1 挨拶をする	
2分	2 本時の授業の流れを確認する	
3分	3 本時のめあてを決める	
展開 40分	4 活動1	<p>授業中、生徒を褒める、励ます、認めることを意識し、自己肯定感が高まるような声掛けをすることが大切です。</p>
	5 活動2	
終結 5分	6 学習の振り返りをする	<p>学習振り返りシートに記入し、本時の学びを振り返ります。また、次回の学習内容について、生徒と対話し、主体的に学習できるものを選択させるなど工夫しましょう。</p>
	7 挨拶をする	

個別の指導計画を作成したり評価・改善したりする際、指導内容を考えますが、生徒に合わなかったり、生徒の実態に合わせてステップアップしたりすることも考えられます。そのようなときは生徒と話し合いながら本人に合った学び方を探ってみてはどうでしょう。中学生ですから、自分に合った学びなのか否かを判断できる年齢です。生徒自身が「自分にもできる！」と思える活動なら、主体的に学ぼうとする意欲が生まれ、通級による指導の効果が更に期待できます。「できた！」という実感も得られ、自己肯定感の高まりにもつながりますよ。





自立活動の授業をしたことがないので、どんなことをすればよいのかイメージが湧きません…。

モデルケースとしての授業展開例が3パターンあります。指導内容だけを見るのではなく、流れ図や個別の指導計画とのつながり、授業の組み立て方など、指導を行う際の参考にしてください。



ねらいや活動内容は、流れ図や個別の指導計画を基にしています。

3 実践編 5 1 漢字を構成要素に分解して学習

▶指導に当たって
 ・マリさんは、視覚で捉える力が強いと考え、漢字をへんとつくりなどの構成要素に分解し、注意すべき点を焦点化した後に再構成することで漢字を正しく覚えられると考えた。
 ・活動1では、「にんべん」の漢字を漢字カードから探す活動を行い、仲間分けて学習できるようにした。
 ・活動2では、マリさんの強みである視覚で捉える力と手の器用さを生かし、漢字を要素ごとに色分けする活動を行う。漢字を分解し再構成する際に、視覚で捉えている漢字の要素を言語化して話すことで、漢字を覚えられるヒントになると考えた。
 ・活動3は、学習した漢字を使って短文を考える活動である。

▶本時のねらい

・漢字を構成要素に色分けして分解する学習を通して、漢字を正しく捉えて書くことができる。(環)
 ・短文作りを通して文中で漢字を使うことができる。(環)

▶指導過程

段階	学習内容	指導上の留意点
導入 5分	1 はじめの挨拶をする。 2 授業の流れを確認する。 3 本時のめあてを決める。	・生徒と目を合わせて挨拶をする。 ・生徒に授業内容の選択をさせるなどの配慮をする。
展開 10分	4 活動1 ・にんべんの漢字を探す。 信種清加 梅位英億 望辺伝低	・「へん」に焦点を当て、視覚を使ってにんべんの漢字を探すよう指示する。その際、読み方を一緒に確認する。 「にんべん」の漢字を探して書いてみましょう。 「伝える」「付く」「借りる」「億」…いっぱい見付けました。 今日はにんべんの漢字を分解して漢字の勉強をしてみましょう。
15分	5 活動2 ・漢字を分解して色分けする。 漢字を分解してみましょう。「位」をへんとつくりに分けると…「にんべん」と「立」で「くらい」です。	・へんとつくりで分解するのではなく、生徒本人が分かる漢字や片仮名に分解し、覚えられるようにする。 「信」は「にんべん」と「言(言う)」です 「伝」は、「にんべん」と「ニ」と「ム」に分けられます!
15分	6 活動3 ・学習した漢字を使って短文を作る。	・間違えそうな漢字の構成要素に気を付けられるようにする。 ・漢字を再構成する際に、「人が言わせて漢字を書けるように、生徒が書いて、書き順にそって語呂合わせを考 ・学習した漢字はファイリングし、読み ・生徒が音読みと訓読みを合わせた短文を作る。
最終 5分	7 授業の振り返りをする。 8 終わりの挨拶をする。	・振り返りシートに本時の学習の学びをまとめる。 ・頑張ったことや成長を具体的な言葉で称賛する。 ・次時の授業の予告や次時の授業内容を決める。 ・生徒と目を合わせて挨拶をする。

P.42からの自立活動指導例では、導入や終結を省略して記載しています。

授業展開例は、略案形式の指導過程に、先生と生徒との会話が加わった仕立てになっています。

また、他の授業展開例として、モデルケースの生徒以外の【自立活動指導例】がありますので、そちらも参考にしてください。ただし、自立活動の指導は「オーダーメイドの指導」です。生徒一人一人の特性と、それぞれの活動のねらいがマッチしていなければなりません。書店にも特性に応じたトレーニング教材の本があり、インターネット上にもヒントとなるものがたくさんありますので、生徒の実態をしっかりと把握した上で、教材・教具を選択し、授業を行うようにしましょう。



P.42～ 自立活動指導例

▶ 指導に当たって

- ・マリさんは、視覚で捉える力が強いと考え、漢字をへんとつくりなどの構成要素に分解し、注意すべき点を焦点化した後に再構成することで漢字を正しく覚えられると考えた。
- ・活動1では、「にんべん」の漢字を漢字カードから探す活動を行い、仲間分けして学習できるようにした。
- ・活動2では、マリさんの強みである視覚で捉える力と手の器用さを生かし、漢字を要素ごとに色分けする活動を行う。漢字を分解し再構成する際に、視覚で捉えている漢字の要素を言語化して話すことで、漢字を覚えられるヒントになると考えた。
- ・活動3は、学習した漢字を使って短文を考える活動である。

▶ 本時のねらい

- ・漢字を構成要素に色分けして分解する学習を通して、漢字を正しく捉えて書くことができる。(環)
- ・短文作りを通して文中で漢字を使うことができる。(環)

▶ 指導過程

段階	学習内容	指導上の留意点												
導入 5分	1 はじめの挨拶をする。 2 授業の流れを確認する。 3 本時のめあてを決める。	・生徒と目を合わせて挨拶をする。 ・生徒に授業内容の選択をさせるなどの配慮をする。												
展開 10分	4 活動1 ・にんべんの漢字を探す。 <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <table border="1" style="text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr><td>信</td><td>種</td><td>清</td><td>加</td></tr> <tr><td>梅</td><td>位</td><td>英</td><td>億</td></tr> <tr><td>望</td><td>辺</td><td>伝</td><td>低</td></tr> </table> </div> <div> <p>「にんべん」の漢字を探して書いてみましょう。</p> <p>「伝える」「付く」「借りる」「億」……いっぱい見付けました。</p> <p>今日はにんべんの漢字を分解して漢字の勉強をしてみましょう。</p> </div> </div>	信	種	清	加	梅	位	英	億	望	辺	伝	低	・「へん」に焦点を当て、視覚を使ってにんべんの漢字を探すよう指示する。その際、読み方を一緒に確認する。
信	種	清	加											
梅	位	英	億											
望	辺	伝	低											
15分	5 活動2 ・漢字を分解して色分けする。 <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>漢字を分解してみましょう。「位」をへんとつくりに分けると…「にんべん」と「立」で「くらい」です。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;">位</div> </div> <div> <p>へんとつくりだけではなく、自分で覚えやすいように分けることはいいことです。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;">億</div> <p>「億」はどう考えたら分かりやすいか、色分けしてみましょう！</p> </div> </div>	・へんとつくりで分解するのではなく、生徒本人が分かる漢字や片仮名に分解し、覚えられるようにする。 <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;">信</div> <p>「信」は「にんべん」と「言(言う)」です</p> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;">伝</div> <p>「伝」は、「にんべん」と「ニ」と「ム」に分けられます！</p> </div>												
15分	6 活動3 ・学習した漢字を使って短文を作る。	・間違えそうな漢字の構成要素に目を向けさせ、漢字を書く際に気を付けられるようにする。 ・漢字を再構成する際に、「人が言ったら信じよう」などの語呂合わせで漢字を書けるように、生徒と一緒に考える。注意事項として、書き順にそって語呂合わせを考えるようにする。 ・学習した漢字はファイリングし、繰り返し学習できるようにする。												
終結 5分	7 授業の振り返りをする。 8 終わりの挨拶をする。	・振り返りシートに本時の学習の学びをまとめる。 ・頑張ったことや成長を具体的な言葉で称賛する。 ・次時の授業の予告や次時の授業内容を決める。 ・生徒と目を合わせて挨拶をする。												

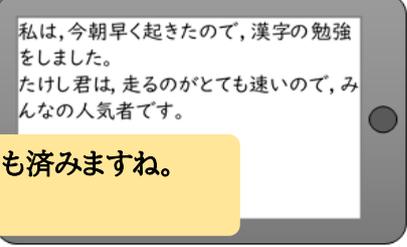
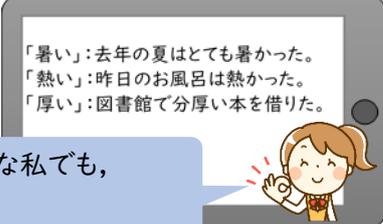
▶ 指導に当たって

- ・活動1では、前時までに学習した漢字の復習を踏まえてパズルに取り組む。
- ・活動2は、タブレット端末を活用した学習活動である。漢字を書くことに困難があるマリさんが、漢字を正しく読んだり使ったりできれば、タブレット端末を活用することで文を正しく作ることができる考えた。間違いやすい漢字として同音異義語を扱い、漢字の意味と漢字を結び付けて覚えられるようにする。
- ・活動3では、調べた漢字をアプリを活用してまとめ、いつでも復習ができるようにする。
- ・活動4では、漢字の意味の違いに注意して打ち込んだ短文を印刷してノートに貼ることで、書くことに困難を抱えているマリさんの自己肯定感に向上につながると考える。

▶ 本時のねらい

- ・タブレット端末を活用して、同音異義語を使った短文を正しく作る。(健・環)

▶ 指導過程 (展開)

段階	学習内容	指導上の留意点
展開 5分	4 活動1 ・漢字パズルに取り組む。 	・漢字を分解したものを組み合わせ、正しい漢字を作らせる。漢字が出来上がったら、読み方を確認する。 
15分	5 活動2 ・タブレット端末を活用して短文を打ち込み、変換する。  この例文をタブレットに打ち込んで、変換してみましよう！ ①わたしは、けさはやくおきたので、かんじのべんきょうをしました。 ②たけしくんは、はしるのがとてもはやいので、みんなのにんきものです。 ③ちゅうがっこうにゆうがくしてはんとしになります。じかんがたつのははやいものです。	・タブレット端末を活用して文を打ち込む練習をさせる。また、間違いやすい同音異義語を文の中に入れ、正しく変換できているか確認する。 ・「早い」「速い」の使い方を理解できているかを確認する。 
10分	6 活動3 ・調べた同音異義語をアプリを使ってまとめる。  他の同音異義語についてもタブレット端末で調べてみましょう。 「暑い」「熱い」「厚い」を見付けました。 それぞれの意味を調べたら、単語帳アプリにまとめましょう。	・他の同音異義語についても調べさせ、単語帳アプリにまとめさせる。 
10分	7 活動4 ・タブレット端末を活用して、調べた漢字を使った短文作りをする。	・調べた同音異義語を使った短文を自分で考え、タブレット端末に打ち込ませる。 ・正しく変換できているか確認し、印刷する。  タブレットをうまく使えば、漢字を書くのが苦手な私でも、漢字の文が作れるんですね！ 

▶ 指導に当たって

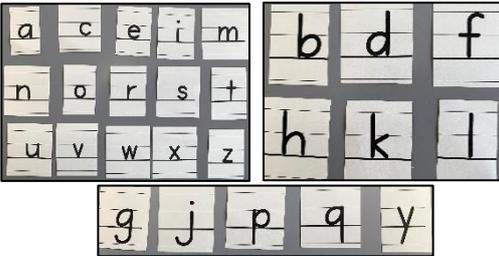
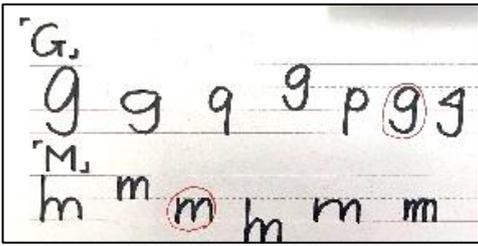
- ・アルファベットを書くことに苦手意識を持っているので、4罫線の使い方でもアルファベットを分け、形を捉えやすくする。また、違っているところや同じところに気付かせ、自分で気を付けて書けるようにする。
- ・活動1では、触覚や視覚を使い、楽しみながらアルファベットの形を作ることで、アルファベットの画の長さや向きに気を付けられるようにする。
- ・活動4では、マリさん自身が自分で英語と日本語の表記の仕方の違いに気付き、自分で気を付けられるようにする。また、具体的にどのくらいの間隔を空けたらいいのかを示すことで、理解できるようにする。

▶ 本時のねらい

- ・英語と日本語の表記の違いに気付くために、具体的に視覚で捉え、英単語を正しく書くことができる。

(心・環)

▶ 指導過程 (展開)

段階	学習内容	指導上の留意点
展開 10分	<p>活動1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モールを使ってアルファベットの形を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形を作るときには、辺の長さに注目したり、細かな違いに気付いたりできるようにする。 
15分	<p>活動2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語4罫線にアルファベットを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4罫線の使い方を具体的に言葉で説明する。 ・一番上の罫線まで使う文字、2本目と3本目だけ使う文字、一番下の罫線を使う文字に分けて書くようにワークシートを用意する。 ・「a」から順番に学習するのではなく、形の似ている文字をアルファベットカードで見付けて、気を付けて書くようにさせる。
5分	<p>活動3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したアルファベットを覚えているか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正解を見付けるだけではなく、なぜ間違っているかも聞く。 <p>4罫線にアルファベットを正しく書いているものに○を付けましょう。</p> <p>簡単です!この「g」一番下の線を使うんですよ。だから…右から2番目です!</p> 
10分	<p>活動4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語の教科書と社会の教科書(横書き)を見比べて、表記の相違点や共通点を問う。 <p>英語の書き方と日本語の書き方の違いはどこでしょう?</p>  <p>次の時間は、英語文を書いてみましょう!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の教科書と社会の教科書(横書き)を見比べて、表記の相違点や共通点を問う。 <p>単語と単語の間が空いている!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単語と単語の間隔を具体的に示す。(人差指1本分) ・単語と単語を空けずに書くと単語が読めないことに気付かせる。 <p>単語と単語の間は指1本分空ける!</p> 

通級指導教室 学習振り返りシート

年	組	氏 名
1	1	通級 マリ

担当の先生
森村 ミユ



今日の授業を振り返り、自分自身で頑張ったと思えること、できたと感じたことを書いてみましょう。

月 日	学習の内容	今日の目標	感想・反省等
6/18 (木) 3校時	勉強や生活について先生と話をした。これからの通級での学習を考えた。		初めて通級で勉強したので、きんちょうしたけれど、先生と話をし、これからがんばっていこうと思った。
6/24 (水) 4校時	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の仲間分け 短文作り 	<ul style="list-style-type: none"> にんべんの漢字を覚えるためのごろあわせを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字をパズルのようにして勉強したのは初めてだった。ごろあわせを考えるのが楽しかった。
/ ()			

通級指導教室 指導の記録シート(2週ごと)

毎週回覧する場合は、加工してお使いください。

年	組	通級	校長	教頭	教務	特支C
1	1	通級 マリ				

回覧後は特別支援教育コーディネーター、教務主任、教頭、校長が押印後、指導の記録として保管。

学期の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った漢字の覚え方を知り、習得した漢字を正しく用いて、短文を作ることができる。 ・形が類似しているアルファベットの違いを見分け、正しく書くことができる。
-------	---

1. 通級指導教室の指導内容の記録 令和2年6月15日 ~ 6月26日

月日, 校時	指導内容	生徒の学習の様子
6/18(木) 3校時	学習や生活で困っていることについて話し合い、今後の通級での学習を考えた。	自分が困っていることに向き合い、これから改善に向けて頑張っていこうという意欲が感じられた。
6/24(水) 4校時	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の仲間分け ・短文作り 	漢字の学習に意欲的に取り組み、分解要素に分けることに興味を示した。「信」を覚えるために、「人が言ったら信じよう」と語呂合わせを考えた。

欄が足りない場合は加工してお使いください。

2. 通級指導担当教員から各教科担任へ、授業中に配慮してほしい点など

・小学4年生程度の漢字の学習を行っています。教科書等で漢字が読めないときには、読み方を教えて振り仮名を振らせてください。ノートに授業の振り返り等で文章を書くときに、平仮名で書くことが多いと思いますが、漢字で書くように添削せず、文を書いたことを認めてください。ノートの漢字の間違い等は、通級で生徒と一緒に直します。徐々に漢字を使って文章を書けるように指導していきます。

通級による指導を行い、通常の学級で留意してほしい点を記入します。

3. 学級担任や各教科担任から、普段の授業における生徒の様子など

教科名	教科担任名	授業中に気付いたこと(改善を要する点だけでなく、良い点や成長も含めて)
国語	〇〇 〇〇	読めない漢字が多く、教科書の内容が理解できていないように感じる。しかし、板書をしっかりノートに写し、勉強しようという意欲が見られる。
数学	〇〇 〇〇	計算の仕方を覚えると自分で問題を解くことができた。文章問題は、クラス全体でどんな問題かを確認することで立式できた。
理科	〇〇 〇〇	班の友達と協力して実験に取り組んでいる。実験結果の予想はできるが、理由を書くことは難しい。
社会	〇〇 〇〇	グラフから読み取ったことをノートに書く活動では、どのように書いていいかわからず書けなかったが、言葉で発表することができた。
英語	〇〇 〇〇	言語活動では、自分から進んで友達に声を掛けることは難しいが、友達から声を掛けられると、笑顔で活動に参加している。アルファベットに書き間違いが多い。
音楽	〇〇 〇〇。
美術	〇〇 〇〇。
保健体育	〇〇 〇〇。
技術・家庭	〇〇 〇〇。
学級	〇〇 〇〇	HR 等で話をするときは、話の内容を可視化したことで、マリさんだけでなく、クラス全体に確実に伝達することができている。

2の記入後、このシートを回覧し、各教科担任や学級担任に、通常の学級での生徒の様子について記入してもらいます。

毎月や半期ごとなどの場合は加工してお使いください。

保護者連絡シート 1学期

年	組	氏名
1	1	通級 マリ

作成日
令和 2年 7月 19日

学期の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った漢字の覚え方を知り、習得した漢字を正しく用いて、短文を作ることができる。 ・形が類似しているアルファベットの違いを見分け、正しく書くことができる。(大文字, 小文字)
-------	---

月日	通級指導教室での学習内容	学習の様子
6/18 (木)	学習や生活での困り感について話し合い、今後の通級での学習を考えた。	自分が困っていることに向き合い、これから改善に向けて頑張っていこうという意欲が感じられた。
6/24 (水)	・漢字の仲間分け ・短文作り	漢字をへんとつくりなどに分ける学習に意欲的に取り組み、「信」を覚えるために、「人が言ったら信じよう」と語呂合わせを考えた。
6/29 (月)	・漢字の仲間分け, 漢字パズル ・短文作り	授業の始めに、先週学習した漢字の復習をした。すべて正しく書くことができた。本時では、うかんむりの漢字について学習した。漢字をどのように分解したら覚えやすいかを考えながら色分けしていた。
7/3 (金)	欄が足りない場合は加工してお使いください。
7/7 (火)	・同音異義語 ・タブレット端末を活用した短文作り	「厚い」と「暑い」、「熱い」の意味の違いを理解し、タブレット端末を使って短文を作り、正確に変換することができた。
7/16 (木)	
7/20 (月)	・アルファベットの書き方	学期を通して、学習への取り組みの様子や生徒の成長について記入します。家庭で取り組んでほしいことやお願いしたいことなどもあれば記入しましょう。

通級担当より	<p>初めての通級の授業では、不安そうにしていたのですが、回数を重ねるごとに授業に慣れ、笑顔が増えました。漢字の学習では、漢字を自分なりの方法で分けて、正しく漢字を覚えることができました。漢字を分解して覚える方法はマリさんに合っているようです。また、タブレット端末を活用した短文作りにも挑戦しました。漢字の読みや使い方を正確に覚えることで、文を作ることができることに気づき、大変うれしそうでした。2学期も、自己肯定感を高め、自信を持って学習に取り組んでいけるように指導していきます。</p> <p style="text-align: right;">通級指導担当名 森村 ミユ</p>
学級担任より	<p>通級による指導を始めてから、通常での学級の授業にも意欲的になり、学習した漢字を使ったり、分からない漢字には教師や友達に聞いて自分から進んで振り仮名を振ったりする姿が見られました。通級指導教室での学びを教室でもどんどん生かせるように支援していきます。</p>

通信票の所見と重なる部分もあるかもしれませんが、通級による指導の成果が感じられるエピソードを書き、生徒の成長を保護者に伝えましょう。

保護者より	
-------	--



指導目標や指導内容が適切だったか、不安なのですが…。

学期ごとに、指導目標や指導内容が適切であったかを振り返りましょう。下の図は、PDCAサイクルと呼ばれるものです。計画・実行・評価・改善を行うことで、よりよい指導につながります。



PDCA サイクル

- ・実態把握
- ・課題の共有化
- ・実態に見合った目標設定や指導内容の模索



- ・通級による指導
- ・指導の記録

- ・次学期の指導目標や指導内容の検討
- ・個別の指導計画への反映

- ・目標達成の確認
- ・通常の学級における生徒の変容や成長



具体的には何をすればいいのでしょうか？

自立活動の「個別の指導計画」に、評価の欄があります。例えば1学期終了後、通級指導教室と通常の学級において、指導目標や指導内容は適切だったかを振り返りましょう（評価）。そして2学期の指導目標と指導内容を決めましょう（改善）。特別支援教育コーディネーターの先生に相談しながら行くとよいですね。



分かりました。相談しながらやってみます！

個別の教育支援計画

令和2年6月7日作成

〇〇市立美田杜中学校

学年・組 (担任名)	1年 1組 (〇〇 〇〇)	2年 組 ()	3年 組 ()
生徒氏名	つうきゅう 通級 マリ	性別	女
保護者氏名	通級 守	住所・TEL	宮城県××市△△△△△1-4
諸 検 査	検査年月日	検査名	実施機関
	H30.〇.〇	WISC-IV	〇〇〇病院
検査結果	FSIQ××, VCI〇〇, PRI△△, WMI□□, PSI〇〇		
行動や認知の 特性・課題	<ul style="list-style-type: none"> 目で見えて理解する力が高いが、耳で聞いて理解する力が弱い。 小学4年生の時に読み書き障害の診断を受けている。 		
生活の様子	得意なこと 好きなこと	<ul style="list-style-type: none"> すべきことを目で確かめると、行動することができる。 手本を見せると模倣できる。 自分の考えを言葉で表現することができる。 	
	不得意なこと 苦手なこと	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きが苦手。 漢字を使って文章を書くことが苦手。 形の似ているアルファベットに間違いが多い。 	
生徒・保護者の 願い	生徒	<ul style="list-style-type: none"> 中学生になったので、もっと勉強を頑張りたい。 英語の勉強が分かるようになりたい。 	
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きができるようになってほしい。 高校入試を見据えて、家庭学習の習慣が付いてほしい。 	
具体的な支援	家庭	学校	医療・その他関係機関
	<ul style="list-style-type: none"> 一緒に新聞を読む機会を設ける。読めない漢字があったら読み方を教える。 	<ul style="list-style-type: none"> 通級による指導を週1回行う。 指示は可視化する。 読めない漢字があったら読み方を教える。 	<p>個別の指導計画と共通する項目もあるので確認してください。</p>
合理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> 定期テストは、ルビ付き用紙を使用する。 		

➡ 様式・資料集 合理的配慮3観点11項

個別の指導計画とともに、保護者に確認してもらいます。

私は、以上の内容を確認しました。

令和2年 6月10日

保護者
作成者

印
印

3

自立活動指導例

1. 計算に困難を抱えている生徒・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
 - 視覚的な手掛かりや具体物の操作による理解・・・・・・・・・・ 43
 - 視覚的な手掛かりを利用した計算の順序の決まりの理解・・・・・・・・ 44
 - 計画的に学習に取り組む方法の習得・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

2. 図形の問題やグラフの読み取りが苦手な生徒・・・・・・・・・・ 46
 - 具体物の操作を通した図形の理解・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
 - グラフを読み取る方法の習得・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
 - 能率よくテスト問題を解く方法の習得・・・・・・・・・・・・ 49

3. 感情のコントロールが苦手で、トラブルをよく起こす生徒・・・・・・・・ 50
 - 場面の振り返りと自己理解・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
 - 感情をコントロールする方法の習得・・・・・・・・・・・・ 52
 - 考え方や感じ方の多様性の理解・・・・・・・・・・・・・・ 53

4. 自己表現することが苦手で、欠席が増えてきている生徒・・・・・・・・ 54
 - 安心感を高めて活動に参加する方法・・・・・・・・・・・・ 55
 - 自分の思いを伝える方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
 - 他者と上手に関わるための方法・・・・・・・・・・・・・・ 57

5. 場の空気が読めず、対人関係に困難がある生徒・・・・・・・・・・ 58
 - 日常生活の暗黙のルールやマナーの理解・・・・・・・・・・ 59
 - その場に合った行動や発言・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
 - 楽しく会話するためのルールの理解・・・・・・・・・・・・ 61

自立活動指導例

▶ 生徒の実態

中学1年男子生徒カズさんは、数学を苦手としている。特に計算が苦手で、四則演算や括弧のある計算問題では、①誤った順番で計算してしまう。掛け算九九では、 $4 \times 6 = 22$ (しろくにじゅうに)や $9 \times 3 = 21$ (くさんにじゅういち)など、②2(に)と4(し)、1(いち)と7(しち)、4(し)と7(しち)のように、母音が共通しているものについての言い間違いが多い。計算の手順や九九が定着していないため、③学習の成果が現れず自信を失っている。中学校入学後、初めての数学の小テストで0点を取って以来、ノートの隅に絵を描いたり、机に伏したりするなど、授業に参加しようとしなくなり、徐々に保健室で過ごすことが多くなってきた。④テスト勉強も分からない問題にぶつかると途中で投げ出してしまい、⑤「どうせ自分は勉強ができない」などと口にしてしている。技術・家庭などの実技教科には積極的に参加しており、⑥木工では、手順書を見ずに完成品を忠実に再現した本棚を作り上げた。

▶ 指導課題の整理

- ・ ①計算の手続きを理解できていない実態や②掛け算九九の言い間違いが多い実態から、①物事の順序を捉えたり、②音声で理解したりすることが苦手であると考えられる。反対に、⑥技術・家庭の実態から、⑥目で見て物事の全体像を捉えることが比較的得意であると考えられる。
- ・ 学習面においても、言葉だけではなく視覚的に物事をイメージ化して全体像を捉えることを通して、理解を深めていけるようにしていく。
- ・ 特に②掛け算九九の習得については、他教科や生活場面での活用を見据えて、重要な課題であると捉えた。
- ・ 計画能力を高め、④計画的にテスト勉強に取り組む方法を身に付けることも重要であると考えられる。
- ・ ③⑤学習に対する自己肯定感が低下しているため、長所やできているところを認めながら、自己肯定感を高めることができるような指導を行う。

▶ 年間指導目標と具体的な指導内容

- ・ 視覚的手掛かりを基にした、計算の学習方法を身に付ける。(心・環)
- ・ 計画的にテスト勉強に取り組む方法を身に付ける。(健・心)

○選定された項目

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	情緒の安定に関する事	他者とのかかわりの基礎に関する事	保有する感覚の活用に関する事	姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2)	病気の状態の理解と生活管理に関する事	状況の理解と変化への対応に関する事	他者の意図や感情の理解に関する事	感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事	言語の受容と表出に関する事
(3)	身体各部の状態の理解と養護に関する事	障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	自己の理解と行動の調整に関する事	感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	日常生活に必要な基本動作に関する事	言語の形成と活用に関する事
(4)	障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		集団への参加の基礎に関する事	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	身体の移動能力に関する事	コミュニケーションの手段の選択と活用に関する事
(5)	健康状態の維持・改善に関する事			認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	状況に応じたコミュニケーションに関する事

具体的な指導内容 (週1回)	掛け算九九の表から、その性質を捉えたり、具体物を操作したりすることで、掛け算九九を習得する。 → 指導例 1.1 (P.43)	視覚的な手掛かりとして記号を用いたり、絵や図を用いたりする学習方法を身に付ける。 → 指導例 1.2 (P.44)	全体を見通して学習計画を立てる方法を身に付け、計画的にテスト勉強に取り組むことができるようにする。 → 指導例 1.3 (P.45)
-------------------	--	--	---

通常の学級における配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学や理科など、計算を扱う教科の教科担任と連携し、支援を行う。 ・ 指示を行う際には、口頭によるものだけでなく視覚的支援を行うようにする。
---------------	--

1.1 視覚的な手掛かりや具体物の操作による理解

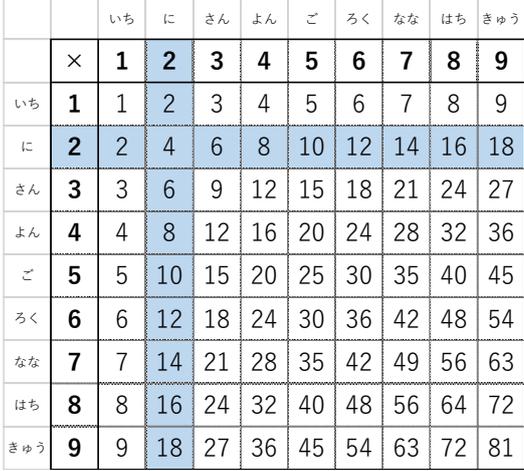
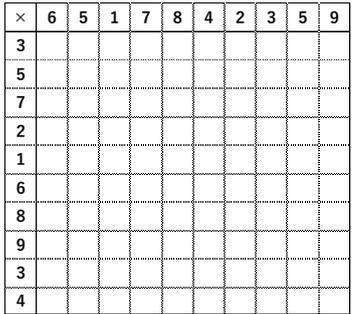
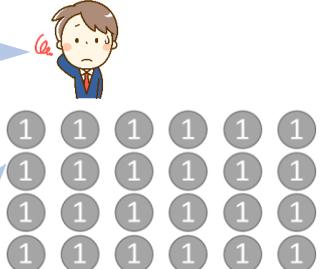
▶ 指導に当たって

- ・活動1では、掛け算九九の表を見て、視覚的にその特徴を見付けていく活動を通して、九九の理解を促す。九九の表には、1(いち), 4(よん), 7(なな)のように聞き間違えにくい振り仮名を振ることとする。
- ・活動2では、百ます計算に取り組む。タイムトライアル形式で行い、タイムと正解数を毎時記録していくことで、達成感を味わったり、自己の成長を確認したりできるようにする。
- ・活動3では、活動2で間違った計算について、具体物を操作して確認し、視覚的な理解を促す。

▶ 本時のねらい

- ・掛け算九九の表からその性質を捉えたり、具体物を操作したりすることで掛け算九九を習得する。(心・環)

▶ 指導過程 (展開)

段階	学習内容	指導上の留意点
展開 15分	活動1 ・掛け算九九の表を見て、性質を見出す。 前回までは、 ① 1の段は1ずつ大きくなっていく ② 2の段は2ずつ大きくなっていく そして前回は①②から、 ③ □の段は□ずつ大きくなっていくことに気が付きましたね。 縦に見ていくのと横に見ていくのとで、同じ数が並んでいます。 今日もいい発見ができましたね！ 振り返りシートに書いておきましょう！	・前回までの発見の振り返りを行う。 ・新たな性質を1つ見つけられるように、ヒントを与える。 
10分	活動2 ・百ます計算に取り組む。 今日も新記録を目指して頑張りましょう！ さっき九九の表をじっくり見たし、今日は前回よりもできる気がする！	・タイムトライアル形式で行う。 ・タイムと正解数を記録し、ゲーム感覚で挑戦する。 
15分	活動3 ・百ます計算の間違った問題について、具体物を操作して答えを確認する。 前回よりも間違いは減ったけど……8問も間違えちゃった。 では間違った問題の確認をしましょう。まずは「4×6」！ 実際に並べて……1, 2, 3, …, 24! あ、22じゃなかったか！次は間違えないようにしましょう。	・1円玉やおはじきを実際に並べて数えることで、答えを確認する。 

1.2 視覚的な手掛かりを利用した計算の順序の決まりの理解

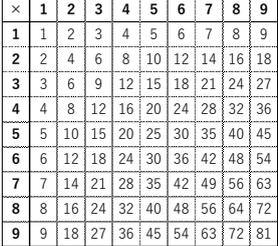
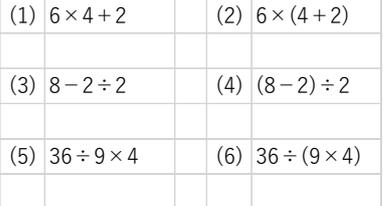
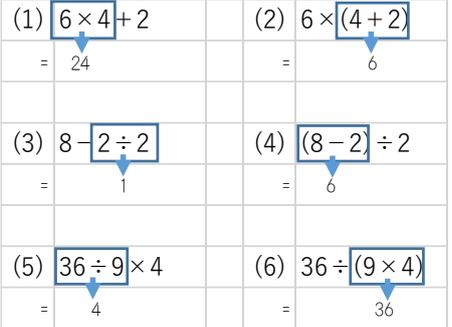
▶ 指導に当たって

- ・活動1では、掛け算九九の表を見て、視覚的にその特徴を見付けていく活動を通して、九九の理解を促す。(前頁1.1と同様の活動)
- ・活動2では、□などの記号を用いて式全体から計算すべき場所を焦点化し、四則演算の優先順位に従って計算する方法を身に付ける。

▶ 本時のねらい

- ・視覚的な手掛かりとして印を用いることによって、正しい計算手順を身に付ける。(心・環)

▶ 指導過程 (展開)

段階	学習内容	指導上の留意点
展開 15分	活動1 ・九九の表を見て、性質を見いだす。	・前回までの発見の振り返りを行う。 ・新たな性質を1つ見付けられるように、ヒントを与える。
	5の段は1の位が必ず0から5になっています。 そうですね！今日も決まりを見つけることができましたね！ 次の発見が楽しみです。	
25分	活動2 ・四則混合計算の問題に取り組む。	・計算の優先順位について確認する。
	今日、今日は計算問題に挑戦しましょう。 足し算や掛け算が混ざってる!()もあるな… +, -, ×, ÷, () の優先順位は覚えていますか？ () が最初、次は…掛け算だったはず！ そうですね、計算の優先順位は、 ① () ② ×と÷ ③ +と- ですね。 まず、初めに計算する場所に印を付けてみるのはいかがでしょうか。 じゃあ、□で囲んで…… とりあえずこうかな？ 今日、今日は掛け算九九もしっかりできていますね！ 計算結果は、計算した場所のすぐ下に書くといいですよ。こんな感じで。 そうか、すぐ下には書けばいいのか!! じゃあ(1)の続きは、 24+2だから、えーっと……26! 計算すべき場所に注目できるように、 目印を付けながら計算していくといいですね！	  ・必要に応じて矢印などで計算のポイントを示す。 こんな風に、注目するポイントに印を付けていけば、僕でもできるのかもしれないぞ！

1.3 計画的に学習に取り組む方法の習得

▶ 指導に当たって

- ・活動1では、生徒に寄り添い信頼関係を構築しながら、生徒の困っていることを引き出したり、課題の改善に向けた意欲を高めたりしていく。また、これまでの学習方法を客観的に振り返ることで、自己の課題を把握できるように促す。
- ・活動2では、計画能力に弱さがあると捉え、具体的な計画の方法について指導していく。今回は、先にテスト範囲全体を捉えてから、分からない問題を焦点化し、優先順位を考える方法を提案する。

▶ 本時のねらい

- ・全体を見通して学習計画を立てる方法を身に付ける。(健・心)

▶ 指導過程（展開）

段階	学習内容	指導上の留意点
展開 10分	活動1 ・定期考査に向けた教育相談を行う。 ・普段のテスト勉強の仕方を振り返る。	・生徒が困っていることに耳を傾ける。 ・自分のこれまでの学習方法を客観的に振り返ることで、自己の課題を把握する。
	 <p>そろそろ定期テストが近づいてきましたね。</p> <p>僕、テスト範囲の勉強が全部終わったことがないんです。中学校に入ったらテスト範囲も広いし…。</p> <p>それでは一緒にテスト範囲を確認していきましょうか。</p>	
30分	活動2 ・効率よく勉強に取り組む方法を考え、学習計画の作成を行う。	・生徒が主体的に方法を考えられるように促す。 ・必要に応じて、助言を行う。
	 <p>こんなに広いテスト範囲、終わらないよー！</p> <p>それなら、まずは章末問題をやってみて、分からない問題の練習問題を優先的にやってみるのも一つの作戦ですよ。</p> <p>まずは、分かる問題と分からない問題に目印を付けていくといいですね。どんな方法がいいですか？例えば…</p> <p>① 蛍光ペンで色分けしていく ② 「○」や「×」の印を付けていく …方法を決めたら、実際に教科書を見ながらやってみましょう！</p>	 <p>最初からやるのが普通だと思っていました！</p> <p>そういえば、分からない問題が出てきたら嫌になって途中で全部投げ出しちゃうんだよな…だから大事な部分の勉強ができなかったんだな。</p> 
	<p>分かる問題には「○」、分からない問題に「×」、でも、自信のない問題もあるな……「△」にしてみよう！</p> <p>先に全体を見てから、大事な部分を優先して勉強すればいいですね！これならテスト勉強が終わりそう！</p> <p>そうですね！「できる問題から終わらせ、分からない問題は後でじっくり取り組む」など、優先順位を考えて計画表に記入していきましょう！</p>	

▶ 生徒の実態

中学2年女子生徒ケイさんは、①教師の話をよく聞き、一生懸命勉強に取り組んでいる。しかし、各教科において、おおむね理解できている学習内容でも定期考査になると成績が振るわず悩んでいる。教科担任によると、②テストを最後まで解き終わっていないことが多いことが分かった。③2年生2学期の期末考査は、特に数学の成績が落ち込んだ。考査の範囲は平行と合同であった。また、④理科や社会などのグラフを読み取る問題は白紙解答であった。本人からの学習面での困難の訴えを受けた担任が、保護者と教育相談を行ったところ、小学校の頃から⑤学年相応の計算問題を解くことはできるが、⑥図形やグラフの問題を極端に苦手としていることが分かった。⑦社会や国語などの科目は、家で音読をすることで暗記しているとのことであった。また、⑧道が覚えられずに道に迷うことや、家では⑨レシピに示された手順を見ながら上手に料理を作ることにも分かった。ケイさんは、将来は大学に進学したいと考えており、来年の高校進学に向けて、学習面の困難を克服したいと考えている。

▶ 指導課題の整理

- ・③④⑥図形やグラフの問題を苦手としていることや、⑧道に迷う実態から、視知覚の弱さがあると考えられる。一方で、⑤計算問題や⑨料理など、手順がパターン化されていることについては問題なくできている。更に、①授業への取組の様子や⑦家庭学習の様子から、話を聞いて理解することは比較的得意であると考えられる。
- ・自分の苦手なことや長所について理解を促し、③④⑥図形やグラフの問題や②テストへの取り組み方について、方法を手順化していくことが有効であることに気付かせ、通常の学級での学習に生かすことができるようにしていくことが重要であるとする。

▶ 年間指導目標と具体的な指導内容

- ・具体物の操作と手続きの言語化を通して、グラフや図形についての理解を深める。(環)
- ・考査での時間配分の方略を身に付ける。(心・環)

○選定された項目

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	情緒の安定に関する事	他者とのかかわりの基礎に関する事	保有する感覚の活用に関する事	姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2)	病気の状態の理解と生活管理に関する事	状況の理解と変化への対応に関する事	他者の意図や感情の理解に関する事	感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事	言語の受容と表出に関する事
(3)	身体各部の状態の理解と養護に関する事	障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	自己の理解と行動の調整に関する事	感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	日常生活に必要な基本動作に関する事	言語の形成と活用に関する事
(4)	障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		集団への参加の基礎に関する事	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	身体の移動能力に関する事	コミュニケーションの手段の選択と活用に関する事
(5)	健康状態の維持・改善に関する事			認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	状況に応じたコミュニケーションに関する事

具体的な指導内容 (月1回)	具体物の操作を通して、図形の特徴を捉えとともに、図形の特徴や合同な図形の定義などについて、手続きを言語化することで理解を深める。 → 指導例 2. 1 (P. 47)	グラフを読み取るための段階的な手順を整理し、グラフを読み取る方法を身に付ける。 → 指導例 2. 2 (P. 48)	定期考査を解く際に、分からない問題や時間の掛かりそうな問題を後回しにし、解けそうな問題から能率よく解いていく方法を身に付ける。 → 指導例 2. 3 (P. 49)
-------------------	--	---	---

通常の学級における配慮事項	・数学や理科、社会など、グラフや表を扱う教科の教科担任と連携し、支援を行う。 ・指示を行う際には、手順を言語化してスモールステップで示すなどの工夫をする。
---------------	--

2.1 具体物の操作を通した図形の理解

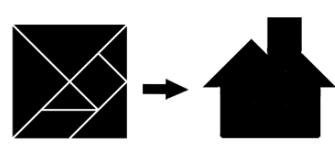
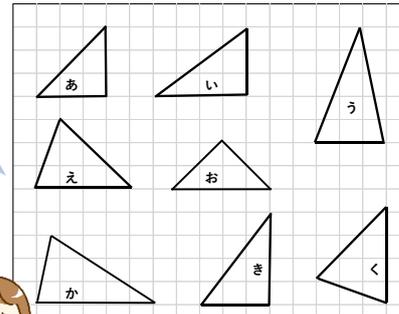
▶ 指導に当たって

- ・活動1では、具体物の操作を通して、図形に慣れ親しむことをねらいとして、パズルに取り組む。
- ・活動2では、数学の内容を取り扱い、合同な図形の組合せを見付ける問題に取り組む。頭の中で図形を想像して考えるのではなく、活動1と同様に、具体物の操作を通して考えることができるようにする。ただ重なる図形の組合せを見付けるだけでなく、「図形が合同であるとはどのようなことなのか」や「合同であることを確かめる手続き」を自分の言葉で言語化・パターン化することを通して理解できるように指導していく。

▶ 本時のねらい

- ・具体物を操作することで、図形の特徴を捉えられるようになる。(環)

▶ 指導過程 (展開)

段階	学習内容	指導上の留意点
展開 10分	活動1 ・図形パズルに取り組む。 【タングラム】 ・合計7つのパーツを組み合わせ、大きな形を作り上げるパズル。 ・見本のシルエットと同じ形をつくる。 ・木やプラスチックでできたものだけでなく、紙で自作してもよい。	・実際にパズルを操作させる。 
30分	活動2 ・実際に具体物を操作しながら合同な図形の組み合わせを探す。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> この中から合同な図形の組合せを探しましょう。 </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 合同は授業でもさっぱり分からなかったんです。 </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> では実際に切り取って比べてみましょう！ </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> えっ！切っちゃっていいんですか？ これならできるかな。 </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> …… </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> これとこれがぴったり重なる！ これも裏返すと重なる！ </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ぴったり重なるということは、どういうことですか？ </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 辺の長さが同じです。あとは…角の大きさも同じです。 </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> では、2つの図形が合同であることを、紙を切らずに確かめるためには、どのようにすればいいですか？ </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 授業中もノートに、手順を言葉でまとめていくといいですね！ </div>	・教科書等の問題を厚紙にコピーしておき、図形を切り抜く作業を一緒に行う。  ・「図形が合同である」ことについて、自分の言葉で言語化することを促す。 ・「図形が合同であることを確かめる手続き」を、自分の言葉で言語化することを促す。 <ol style="list-style-type: none"> ① 辺の長さを調べる ② 角の大きさを調べる ③ 同じ長さの辺を探し、印を付ける ④ 同じ大きさの角を探し、印を付ける ……そうか、確認方法を自分でまとめておけば、私でもできるかも！

2.2 グラフを読み取る方法の習得

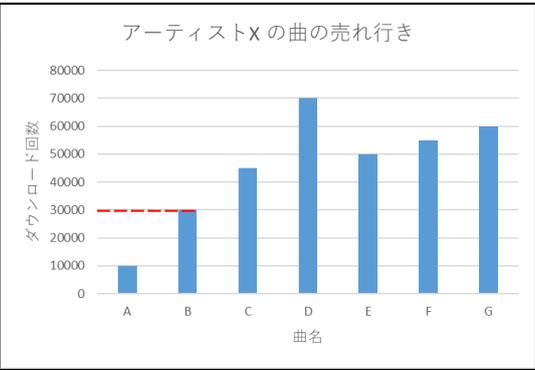
▶ 指導に当たって

- ・グラフを読み取ることに困難を抱えている実態を受け、特性に応じたグラフを読み取る方法を身に付けることを目指す。
- ・活動1では、グラフの縦軸や横軸に注目しながら、グラフが表している事柄を読み取る手順を整理する。グラフを読み取る際には、一つ一つの事柄について言語化していくようにする。
- ・活動2では、活動1の方法を用いて、実際にグラフを読み取る。
- ・グラフの内容は、教科担任と連携し、社会や理科などの授業で用いられているものなどを取り扱ったり、生徒が興味のある内容を扱ったりする。

▶ 本時のねらい

- ・グラフの縦軸や横軸の関係に着目し、グラフを読み取る方法を習得する。(環)

▶ 指導過程 (展開)

段階	学習内容	指導上の留意点												
展開 20分	<p>活動1</p> <p>・グラフを読み取る手順を整理する。</p> <p>あ、私の好きなアーティストです！ ……でもグラフはよく分かりません。</p> <p>グラフを読み取るときには、 この手順で見えていくといいですよ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① グラフのタイトルを確認する ② 縦軸が何を表しているかを読み取る ③ 横軸が何を表しているかを読み取る ④ グラフの左下の項目から、1つずつ量を読み取っていく ⑤ グラフの特徴を捉える ⑥ 分かったことをまとめる <p>「グラフ読み取り手順シート」で やってみましょう！</p> <p>この手順に沿って見ていけばいい んですね！ こんな感じかな……</p> <p>⑥の「分かったこと」は、 ⑤を見ながら考えるといいですよ。</p>	<p>・グラフを1つ示し、グラフのタイトルや縦軸、横軸が何を表しているかを質問していく。</p> <p>・「グラフ読み取り手順シート」を活用して、手順の理解を促す。</p>  <table border="1" data-bbox="853 1276 1404 1803"> <caption>■ グラフ読み取り手順シート</caption> <tr> <td>① グラフのタイトルを確認する</td> <td>アーティストXの曲の売れ行き</td> </tr> <tr> <td>② 縦軸が何を表しているかを読み取る</td> <td>ダウンロード数</td> </tr> <tr> <td>③ 横軸が何を表しているかを読み取る</td> <td>曲名</td> </tr> <tr> <td>④ グラフの左下の項目から、一つずつ量を読み取っていく</td> <td>A曲が10000回, B曲が30000回, C曲が45000回 D曲が70000回, E曲が50000回, F曲が55000回 G曲が60000回</td> </tr> <tr> <td>⑤ グラフの特徴を捉える</td> <td>(1) 一番多いのは <u>D曲</u> の時で、その値は <u>70000</u> (2) 一番少ないのは <u>A曲</u> の時で、その値は <u>10000</u> (3) 値はだんだん (<増えている>) 減っている どちらでもない</td> </tr> <tr> <td>⑥ 分かったことをまとめる</td> <td>だんだん売れている。Dが一番人気がある曲。</td> </tr> </table>	① グラフのタイトルを確認する	アーティストXの曲の売れ行き	② 縦軸が何を表しているかを読み取る	ダウンロード数	③ 横軸が何を表しているかを読み取る	曲名	④ グラフの左下の項目から、一つずつ量を読み取っていく	A曲が10000回, B曲が30000回, C曲が45000回 D曲が70000回, E曲が50000回, F曲が55000回 G曲が60000回	⑤ グラフの特徴を捉える	(1) 一番多いのは <u>D曲</u> の時で、その値は <u>70000</u> (2) 一番少ないのは <u>A曲</u> の時で、その値は <u>10000</u> (3) 値はだんだん (<増えている>) 減っている どちらでもない	⑥ 分かったことをまとめる	だんだん売れている。Dが一番人気がある曲。
① グラフのタイトルを確認する	アーティストXの曲の売れ行き													
② 縦軸が何を表しているかを読み取る	ダウンロード数													
③ 横軸が何を表しているかを読み取る	曲名													
④ グラフの左下の項目から、一つずつ量を読み取っていく	A曲が10000回, B曲が30000回, C曲が45000回 D曲が70000回, E曲が50000回, F曲が55000回 G曲が60000回													
⑤ グラフの特徴を捉える	(1) 一番多いのは <u>D曲</u> の時で、その値は <u>70000</u> (2) 一番少ないのは <u>A曲</u> の時で、その値は <u>10000</u> (3) 値はだんだん (<増えている>) 減っている どちらでもない													
⑥ 分かったことをまとめる	だんだん売れている。Dが一番人気がある曲。													
展開 20分	<p>活動2</p> <p>・グラフを読み取る方法の練習を行う。</p> <p>では、次は実際に授業で使うグラフの 読み取りに挑戦してみましょう。</p>	<p>・教科担任と連携して、社会や理科の授業で用いられるグラフを扱う。</p> <p>・段階的に「グラフ読み取り手順シート」を使わずに、グラフに関する質問に答える活動を取り入れていく。</p>												

2.3 能率よくテスト問題を解く方法の習得

▶ 指導に当たって

- ・日々の学習はおおむね理解できている内容でも、テストになると最後まで解き終わっていない実態や手順どおりに物事に取り組むことが得意な実態から、問題を前から順番に解くことにこだわってしまっていると考えた。
- ・活動1では、まずは生徒の声に耳を傾け、自己理解を促しながら、一緒にテストを解くための方法を考える意欲を高めていく。
- ・活動2では、手順どおりに物事に取り組むことが得意な特性を生かし、後回しにする作業を手順化する方法について、生徒と共に考えていくこととした。方法については、生徒が主体的に選択できるように留意する。
- ・活動3では、考えた方法を身に付けることや自信を付けることをねらい、小テストに取り組む。

▶ 本時のねらい

- ・自分の特性を理解し、テストで問題を多く解くための方法を考える。(心・環)

▶ 指導過程 (展開)

段階	学習内容	指導上の留意点
展開 10分	活動1 ・定期考査に向けた教育相談を行う。	・生徒が困っていることに耳を傾ける。 ・生徒のできている部分を認めながら、課題の整理を行う。
	 <p>テストを時間内に終わらされたことがないんです。結局、残り時間が無くなって焦っちゃうんですね。後から見返すと、分かっている問題も沢山あるのに。</p> <p>いつも頑張って勉強していますよね。もっと力が出せるといいですね。</p> 	
10分	活動2 ・過去のテストや最近の小テストなどを基に、テストで能率よく問題を解くための方法を考える。	・テスト範囲の練習問題などを活用し、小テストを作成しておく。
	 <p>分からない問題を後回しにしてみるのはいかがでしょうか？</p> <p>分かってはいるんですが、できなくて…空欄が気になっちゃうんです。</p> <p>では、うまく問題を後回しにして、たくさん解く作戦を考えてみましょう！ 例えば、後回しにするときには空欄にならないように何か印を書くとか…。</p> <p>後回しにした問題には「あとで」と大きく書いていこうかな。 方法は、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① できる問題を解く ② できない問題には「あとで」と書く ③ 余った時間で「あとで」に取り組む <p>です！</p> 	・分からない問題を後回しにする際には、空欄とならないように何かを記入することを作業として手順化するなど、特性を生かして課題を克服する方法を考える。
20分	活動3 ・小テストに挑戦し、方法を身に付ける。	・テスト範囲の練習問題などを活用し、小テストを作成しておく。
	 <p>時間内でたくさん解けましたね！</p> <p>分からない問題は思い切って飛ばしてみてもいいんですね！ この方法ならたくさん問題が解けるかも！</p> 	

3 感情のコントロールが苦手な生徒をよく起こす生徒

▶ 生徒の実態

中学校2年生男子生徒ジョウさんは、①些細なことでカッとなって暴れたり暴言を吐いたりする。バレーボール部に所属しているが、後輩がグループで談笑しているのを②自分のことを馬鹿にしていると勘違いし、後輩に詰め寄ることがあった。また、教室でも③ちょっとしたことで感情的になり、暴れることもあった。④その都度言っても聞かせても、月日がたつと同じようなトラブルを繰り返す。同じ部の同級生は上手に付き合っているが、その他の生徒はだんだん距離を置くようになり、休み時間は一人で過ごすことが多くなっている。保健体育でダンスのグループを決めるときは欠席した。普段は落ち着きがなく、授業中は集中力が欠けることがよくある。体を動かすことは好きだが、言葉を理解する力や表現する力が弱く、学習面でも苦労している。

▶ 指導課題の整理

- ・①③衝動的に行動することがあるため、感情をコントロールする方法を身に付ける必要がある。
- ・②思い込みが激しく状況判断が難しい一面がトラブルの元になっているので、改善のための指導を行う必要がある。
- ・④トラブルの指導をした際、言っても聞かせても効果が薄かったことから、図や絵で指導すべき内容を示した方がよいと考える。

▶ 年間指導目標と具体的な指導内容

- ・こみ上げた怒りをコントロールする、具体的な方法を身に付ける。(健・心・人)
- ・勝手な思い込みで行動しないように、適切に状況を判断できるようになる。(心・人・コ)

○選定された項目

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	情緒の安定に関する事	他者とのかかわりの基礎に関する事	保有する感覚の活用に関する事	姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2)	病気の状態の理解と生活管理に関する事	状況の理解と変化への対応に関する事	他者の意図や感情の理解に関する事	感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事	言語の受容と表出に関する事
(3)	身体各部の状態の理解と養護に関する事	障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	自己の理解と行動の調整に関する事	感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	日常生活に必要な基本動作に関する事	言語の形成と活用に関する事
(4)	障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		集団への参加の基礎に関する事	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	身体の移動能力に関する事	コミュニケーションの手段の選択と活用に関する事
(5)	健康状態の維持・改善に関する事			認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	状況に応じたコミュニケーションに関する事

具体的な指導内容 (月2回)	・衝動的な行動を例に挙げ、過去に自分が同じようなことをしたことはないか、振り返る時間を持つ。 ・怒りを感じる場面を記録シートにまとめることで、自己理解を図る。 → 指導例3.1 (P.51)	・怒りをコントロールする方法を学び、対処方法を身に付ける。 → 指導例3.2 (P.52) ・トラブルになりやすい場面のイラストを見て、事実と思い込みを整理し、適切な行動が取れるようにする。 → 指導例3.3 (P.53)
--------------------------	---	--

通常の学級における配慮事項	・怒りを感じた場面では、退避場所にいつでも移動できるよう配慮する。 ・必要に応じて、生徒の怒りの気持ちに耳を傾けるようにする。 ・退避場所があることや担任が話を聞くことを生徒に伝えておき、安心感を与えられるようにする。
----------------------	---

3.1 場面の振り返りと自己理解

▶ 指導に当たって

- ・活動1は、課題の指導に入る前に雑談から生徒のよいところを褒める場面。自己肯定感に配慮している。
- ・活動2, 活動3では、最近のトラブルの場面を振り返り、イライラ記録ノートを作る。自分自身を客観的に見て怒りを感じる場面を知り、この後の怒りを感じたときの対処方法の学びにつなげる。対処方法、事実と思ひ込みの整理については、別の指導例で提示する。

▶ 本時のねらい

- ・これまでの衝動的な行動を振り返り、怒りを感じる場面をまとめたり、イラストにしたりすることで、客観的に自分自身を捉えられるようにする。(健・心・人)

▶ 指導過程 (展開)

段階	学習内容	指導上の留意点
展開 10分	活動1 ・最近の出来事を振り返るための対話をする。	・生徒のよいところを褒めるところからスタートし、徐々に課題となる話題に移るようにする。 ・生徒の話に傾聴し、共感的な態度で接する。
10分	活動2 ・トラブルが起きた場面を振り返る。	・どのようなときにイライラしてしまうのか、自己理解を促す。
20分	活動3 ・イライラ記録ノートを一緒に作成する。	・あらかじめイライラする場面を把握することで、対処の仕方考えることができる。

先週のバレーボールの大会優勝したんだって？しかも、大活躍だったって聞きましたよ！

たまたまです。めずらしく調子が良くて…。

そんなことないですよ。努力なしで優勝なんてできません。毎日練習を頑張っていたからです。素晴らしいと思います。

そうかなあ？

応援するのでこれからも頑張してほしいです。ただ、感情的な行動をとってしまうと今までの努力が水の泡になることもあるので、感情のコントロールも頑張っていきましょうね。

昨日は、急に先生から当てられちゃった問題が分からなくて……嫌だな、恥ずかしいなって思っていたんだけど、教室がざわざわしてバカにされている気がしたんだよね。先週は朝に挨拶したら、無視されていらついちちゃったんだ。急に大声を出したから、相手はとても驚いていたけれど。

挨拶は、ちゃんと相手に聞こえていたのですか？

うーん。分からない…。

もしかしたら聞こえていなかったかもしれません。それは、別な日に考えましょう。今日は、最近のイライラした場面をまとめてみましょうか。

どんなときにイライラしてしまったか、振り返ってみましょう。ノートには先生が書きますね。

いいけど、何か意味があるの？

後でこのノートを見たときに、自分はどんなことで怒っていたのかを知り、自分と向き合うことができます。その場ではカッとなっても、後から冷静に考えると何でそんなことで怒ったんだろうってこと、結構あるものですよ。

イライラ記録ノート

① 日時	
② 場所	
③ できごと	
④ 思ったこと	
⑤ 行動や発言	
⑥ 相手にしてもらいたかったこと	

3.2 感情をコントロールする方法の習得

▶ 指導に当たって

- ・活動1では、「アンガーマネジメント」の考え方を知り、怒りのコントロールの仕方について学ぶ。怒りを感じたときの対処方法を準備しておくことで、行動をコントロールできるようにする。
- ・活動2では、衝動的な行動を未然に防ぐ方法を探っていき、生徒自身ができそうだと思うものの中から選択する。次時以降は実践した対処方法について振り返り、うまくいかなかった場合は改善を図っていく。

▶ 本時のねらい

- ・アンガーマネジメントについて学び、怒りを感じた場合の対処方法を考える。(心・人・コ)

▶ 指導過程 (展開)

段階	学習内容	指導上の留意点
展開 20分	活動1 ・怒りをコントロールする方法を知る。	・生徒が主体的に考えられるように促しながら、アンガーマネジメントの手法などを助言したり、ロールプレイで練習したりする。
	 <p>どうしたら、キレずに済むかな。自分自身が嫌になってきたよ…。</p> <p>怒りは誰にでもある感情なので、自分自身を責める必要はないですし、無理に抑え込む必要もありません。必要なのは怒りをコントロールするスキルを身に付けることです。アンガーマネジメントという、怒りのコントロール法があるので、勉強してみましょう。</p> <p>【アンガーマネジメント (3つの暗号)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怒りのピークは6秒間 ・「べき」の境界線を広げる, 伝える, 安定させる ・コントロール可能なことかどうか考える 	
展開 20分	活動2 ・イライラした場合の対処方法を考える。	・様々な対処方法を知り、自分に合った方法を選ばせる。
	 <p>では、イライラして感情が爆発しそうになったときに、どうすればいいか、一緒に具体策を考えてみましょう。</p> <p>いつもカッとなってしまって…。どうすればいいんだろう。</p> <p>例えば、気持ちを落ち着かせる方法として、①ゆっくり10回深呼吸する, ②一旦その場を離れてみる, ③自分を落ち着かせる魔法の言葉を覚えておき, それを唱える, ④好きな感触のものを触ったり, 好きなにおいを嗅いだりする, などがあります。</p> <p>③は思いつかないなあ。①や②ならできるかなあ。</p> <p>では、今月は①, ②を意識して生活してみましょう。待避する場所はトイレや保健室などがいいですね。あらかじめ場所を決めておきましょう。</p> <p>とりあえずトイレに行ってみて, 収まらなかったら保健室で先生に話を聞いてもらうようにするよ。</p>	

3.3 考え方や感じ方の多様性の理解

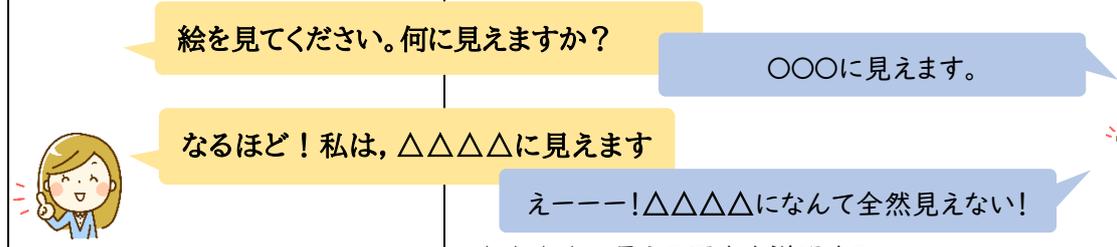
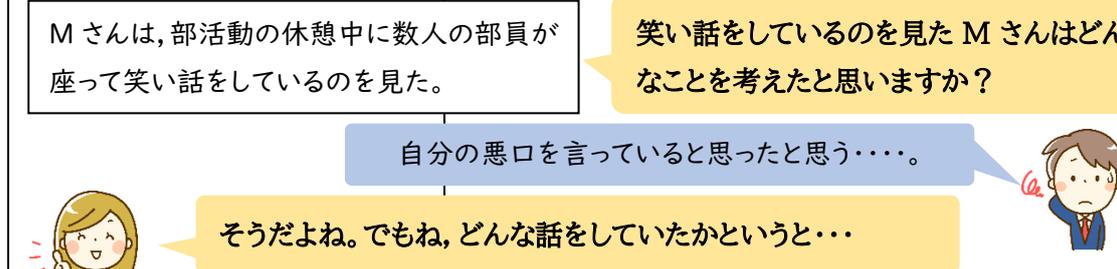
▶ 指導に当たって

- ・活動1は、生徒が自分の考えに固執し、ネガティブに物事を捉えていると考え、人によって考え方や感じ方は色々あることに気付かせる活動である。また、思い込みは誰にでもあり、悪いことではないけれど、本当かどうかの視点を持つておくことが大切だと気付かせたい。
- ・活動2では、実際の場面を想定して考える活動である。生徒が実際に失敗したことをあたかも他人が失敗したことに仕立てることで、生徒の自尊心を傷つけないように配慮する。
- ・次時では、どのように知人に確かめたらよいかについて考える授業展開にする。

▶ 本時のねらい

- ・自分の考えは絶対ではなく、人によって考え方や感じ方は様々であることを知る。(心・人・コ)

▶ 指導過程 (展開)

段階	学習内容	指導上の留意点
展開 15分	活動1 ・だまし絵を見て教師と話をする。	・人によって考え方や見え方に違いがあることに気付かせる。
	 <p>絵を見てください。何に見えますか？</p> <p>〇〇〇に見えます。</p> <p>なるほど！私は、△△△△に見えます</p> <p>えー！△△△△になんて全然見えない！</p>	・△△△△に見える理由を説明する。
	<p>同じ絵を見ていても人によって見え方が違うことってあるんですね。 「〇〇〇に見える」と思い込んでしまうと、△△△△になんて見えるはずがない！と思ってしまうけれど、よく見ると、△△△△にも見えましたね。思い込みは誰にでもあります。私もありますよ。例えば、高いものは安いものより優れている、と思ってしまうこととか。大切なのは、本当にそうなのかな、と疑問を持って確かめることです。</p>	
25分	活動2 ・下のような内容の絵カードを見て、どんな状況か考える。	・生徒が失敗した例を基に場面を作成するが、登場人物は生徒本人ではなく、全く知らない生徒にして考えさせることで、客観的に物事を捉えられるようにする。
	 <p>Mさんは、部活動の休憩中に数人の部員が座って笑い話をしているのを見た。</p> <p>笑い話をしているのを見た Mさんはどんなことを考えたと思いますか？</p> <p>自分の悪口を言っていると思ったと思う……。</p> <p>そうだね。でもね、どんな話をしていたかという……</p>	・他の例についても考える。
	<p>A: 昨日の夜のお笑い番組見た?? B: 〇〇の声、面白かったよね! C: あの動きも笑えたし!</p>	<p>テレビで見たお笑いの話をしていたんだね。</p> <p>実際にこういう場面に出合ったらどうすればいいかな？</p> <p>本人に確認する？</p> <p>そうです。分からなかったら本人に確認するといいですよ。</p>

▶ 生徒の実態

中学1年生女子のトウコさんは、おとなしい性格で休み時間になるといつも一人で本を読んで過ごしている。授業中は、一生懸命板書を書き写す様子が見られる。学校では特定の友達に小さな声でささやくように話す以外は、声を出すことはない。①授業中に指名されると身体が緊張で硬直してしまう。②教師に用があるときは、友達に代弁してもらっている。母親の話では、家では聞かれたことに答えたり、思いを伝えたりすることができているが、③慣れない場所や初対面の人、大勢の人の前では、表情がこわばり言葉が出なくなるとのこと。中学生になり、④学校行事や各教科の発表がある日は登校を渋るようになったことをきっかけに、病院を受診したところ広汎性発達障害と診断された。特別支援教育コーディネーターの助言により、まず安心して自分を表現できる場を設ける必要があると判断し、生徒と保護者合意の基、通級による指導を行うことになったが、トウコさんの希望により授業中ではなく、放課後等に指導を行うことにした。

▶ 指導課題の整理

- ・①②自分の思いをうまく表出できていない実態から、気持ちを伝える方法はいろいろあることに気付かせ、その中から自分に合う方法を身に付けることが大切であるとする。
- ・③④慣れない環境や先の見えない状況に対して、過剰に反応してしまっている実態から、不安な気持ちを軽減する方法を知る必要があるとする。

▶ 年間指導目標と具体的な指導内容

- ・自分の思いを伝えるためのコミュニケーションの手段を身に付ける。(心・人・コ)
- ・自分が安心して活動に取り組むための方法を知る。(心・人・コ)

○選定された項目

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	情緒の安定に関する事	他者とのかかわりの基礎に関する事	保有する感覚の活用に関する事	姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2)	病気の状態の理解と生活管理に関する事	状況の理解と変化への対応に関する事	他者の意図や感情の理解に関する事	感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事	言語の受容と表出に関する事
(3)	身体各部の状態の理解と養護に関する事	障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	自己の理解と行動の調整に関する事	感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	日常生活に必要な基本動作に関する事	言語の形成と活用に関する事
(4)	障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		集団への参加の基礎に関する事	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	身体の移動能力に関する事	コミュニケーションの手段の選択と活用に関する事
(5)	健康状態の維持・改善に関する事			認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	状況に応じたコミュニケーションに関する事

具体的な指導内容 (週1回程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・安心感を高めるために、活動の見通しが持てる自分用のスケジュール表の作成の仕方を身に付ける。→ 指導例4.1(P.55) ・自分の思いを伝えたり、他者と上手に関わったりするためのコミュニケーションの手段を身に付ける。→ 指導例4.2(P.56), 指導例4.3(P.57)
---------------------	---

通常の学級における配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しを持って活動に取り組めるように、予定を教室に掲示したり、事前に個別に詳しい予定を伝えたりする。 ・発表をしなければいけない場面では、本人の了承を得た上で教師や友達が代読や代弁をする。
---------------	--

4.1 安心感を高めて活動に参加する方法

▶ 指導に当たって

- ・トウコさんは、行事前になると不安な気持ちを抱く傾向がある。事前に学級担任を通じてトウコさんの様子を把握するとともに、行事内容の心配事を予想したプリントを準備しておくことで、放課後等の短時間でも自立活動ができるようにする。また、うなずいたり首を振ったりする行為でも自己表現として捉え、相手に思いが伝わったと安心感を持たせるようにする。
- ・活動1, 活動2ともに、自己表現が苦手な実態を踏まえ、不安な行事や行事内容に○を付ける活動にすることで、主体的に学習に取り組めるようになる。と考える。
- ・活動3は、トウコさん用のスケジュール表を作成して、安心感を高めていく活動である。宿泊学習当日のスケジュールだけではなく、事前のオリエンテーションや事後の振り返り等についても見通しを持って参加できるように、内容等について事前に伝えておく必要がある。

▶ 本時のねらい

- ・安心して宿泊学習に参加できるように、活動の見通しを持つ。(心・人・コ)

▶ 指導過程 (展開)

段階	学習内容	指導上の留意点																																										
展開 5分	活動1 ・月予定表を見て、不安のある行事に○を付ける。  <p>月予定表を見て、トウコさんが不安に思っている行事があれば○を付けてみましょう。</p>	・学年便りの月予定表を提示し、今後1か月にどんなことがあるかの見通しを持たせる。  <p>宿泊学習…</p> <table border="1" style="float: right;"> <tr><td>7</td><td>木</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>金</td><td>学年オリエンテーション (宿泊学習)</td></tr> <tr><td>9</td><td>土</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>日</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>月</td><td>学級オリエンテーション (宿泊学習)</td></tr> <tr><td>12</td><td>火</td><td>朝会</td></tr> <tr><td>13</td><td>水</td><td>委員会活動</td></tr> <tr><td>14</td><td>木</td><td>宿泊学習</td></tr> <tr><td>15</td><td>金</td><td>宿泊学習</td></tr> <tr><td>16</td><td>土</td><td></td></tr> <tr><td>17</td><td>日</td><td></td></tr> <tr><td>18</td><td>月</td><td>学年での振り返り (宿泊学習)</td></tr> <tr><td>19</td><td>火</td><td>朝読書</td></tr> <tr><td>20</td><td>水</td><td></td></tr> </table>	7	木		8	金	学年オリエンテーション (宿泊学習)	9	土		10	日		11	月	学級オリエンテーション (宿泊学習)	12	火	朝会	13	水	委員会活動	14	木	宿泊学習	15	金	宿泊学習	16	土		17	日		18	月	学年での振り返り (宿泊学習)	19	火	朝読書	20	水	
7	木																																											
8	金	学年オリエンテーション (宿泊学習)																																										
9	土																																											
10	日																																											
11	月	学級オリエンテーション (宿泊学習)																																										
12	火	朝会																																										
13	水	委員会活動																																										
14	木	宿泊学習																																										
15	金	宿泊学習																																										
16	土																																											
17	日																																											
18	月	学年での振り返り (宿泊学習)																																										
19	火	朝読書																																										
20	水																																											
5分	活動2 ・「宿泊学習」での知っておきたい項目に○を付ける。  <p>宿泊学習について、不安なことや心配なことはありますか？○を付けて教えてください。</p>	・宿泊学習での心配事を知るために、プリントに○を付けるように指示する。  <p>どんなことをするんだろう…</p> <table border="1" style="float: right;"> <caption>宿泊学習で不安なこと</caption> <tr><td>1</td><td>スケジュール</td></tr> <tr><td>2</td><td>持ち物</td></tr> <tr><td>3</td><td>バスの席</td></tr> <tr><td>4</td><td>係の仕事</td></tr> <tr><td>5</td><td>班のメンバー</td></tr> <tr><td>6</td><td>部屋のメンバー</td></tr> <tr><td>7</td><td>班での活動</td></tr> <tr><td>8</td><td>野外炊飯について</td></tr> <tr><td>9</td><td>夜眠れるか</td></tr> <tr><td>10</td><td>その他</td></tr> </table>	1	スケジュール	2	持ち物	3	バスの席	4	係の仕事	5	班のメンバー	6	部屋のメンバー	7	班での活動	8	野外炊飯について	9	夜眠れるか	10	その他																						
1	スケジュール																																											
2	持ち物																																											
3	バスの席																																											
4	係の仕事																																											
5	班のメンバー																																											
6	部屋のメンバー																																											
7	班での活動																																											
8	野外炊飯について																																											
9	夜眠れるか																																											
10	その他																																											
30分	活動3 ・自分用の「宿泊学習スケジュール」を作成する。  <p>今日はスケジュールの不安をなくせるように、ワークシートに詳しい1日の流れを書き込んでいきましょう。</p>	・事前に担任から宿泊学習の日程表を提供してもらい、トウコさん用のスケジュール表を作成できるようにする。 ・ワークシートには、分かったことについて書き込み、見通しを持って宿泊学習に参加できるようにする。 ・昨年度の写真や宿泊先のパンフレットを使用したり、昨年度の感想を紹介したりして、具体的にスケジュールを把握できるようにする。  <p>学校集合は8:00で…</p> <table border="1" style="float: right;"> <caption>(1日目)</caption> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>8:00</td><td>学校集合</td></tr> <tr><td>8:10</td><td>出発式</td></tr> <tr><td>8:20</td><td>学校出発</td></tr> <tr><td>10:00</td><td>自然の家到着</td></tr> <tr><td>10:10</td><td>出会いの集い</td></tr> <tr><td>10:30</td><td>ウォークラリー</td></tr> </tbody> </table>	時間	内容	8:00	学校集合	8:10	出発式	8:20	学校出発	10:00	自然の家到着	10:10	出会いの集い	10:30	ウォークラリー																												
時間	内容																																											
8:00	学校集合																																											
8:10	出発式																																											
8:20	学校出発																																											
10:00	自然の家到着																																											
10:10	出会いの集い																																											
10:30	ウォークラリー																																											

4.2 自分の思いを伝える方法

▶ 指導に当たって

- ・活動1では、教師との対話を通して、自分の思いを伝える経験をさせていく。部活動(美術部)の顧問から、制作に取り組むことになったが全く下描きが進まないとの情報を受け、部活動の話きっかけにトウコさんの思いに耳を傾けていく。必要に応じて教師から選択肢を示しながら、指差しなどの方法でもよいので思いを表現できるようにしていく。話すことを強いるのではなく、思いを伝えることに安心感が持てるように関わりながら、トウコさんの思いを聞き出していく。
- ・活動2では、トウコさんの思いを「コミュニケーションカード」に書かせる。「コミュニケーションカード」は単語帳のようなものを使用し、生活場面で必要に応じて活用できるように書き溜めていく。

▶ 本時のねらい

- ・「コミュニケーションカード」に自分の思いを書き、思いを伝える手段として活用できるようにする。(心・人・コ)

▶ 指導過程(展開)

段階	学習内容	指導上の留意点							
25分	<p>活動1</p> <p>・部活動について教師と話す。</p> <p> 部活動で何か困っていることはありますか？</p> <p>何で困っているのかな？この中にある？</p> <table border="1" data-bbox="502 907 726 1120"> <tr><td>1. 友達のこと</td></tr> <tr><td>2. 先生のこと</td></tr> <tr><td>3. 絵が描けない</td></tr> <tr><td>4. 道具がない</td></tr> </table> <p>絵が描けなくて困っているのですね。絵を描くために困っていることは何ですか？</p> <table border="1" data-bbox="414 1232 766 1433"> <tr><td>1. イメージできない。</td></tr> <tr><td>2. 見本がほしい。</td></tr> <tr><td>3. アドバイスしてほしい。</td></tr> </table>	1. 友達のこと	2. 先生のこと	3. 絵が描けない	4. 道具がない	1. イメージできない。	2. 見本がほしい。	3. アドバイスしてほしい。	<p>・部活動の顧問から情報があつたことは話さずに、生徒とのやり取りの中で困っていることを引き出せるようにする。</p> <p>(うなずく)</p> <p>(「3」を指さす)</p> <p>・必要に応じて、選択肢を示していく。</p> <p>・生徒との対話の中で、生徒が伝えたい内容を把握していく。</p> <p>(「1」と「2」を指さす)</p>
1. 友達のこと									
2. 先生のこと									
3. 絵が描けない									
4. 道具がない									
1. イメージできない。									
2. 見本がほしい。									
3. アドバイスしてほしい。									
15分	<p>活動2</p> <p>・「コミュニケーションカード」を書いて、自分の思いを表現する。</p> <p> そうですか、見本が無くて困っていたのですね。ではそのことを「コミュニケーションカード」に書いて、部活動の先生に伝えてみましょう。</p> <p>相談したいことがあります。</p> <p>見本の作品を見せてください。</p>	<p>・思いを伝える手段の一つとして、「コミュニケーションカード」に思いを書かせる。</p> <p>・「コミュニケーションカード」は単語カードのようなものを使用し、必要に応じて活用できるように、カードリングでまとめていく。</p> <p>顧問があります。</p> <p>先生に行きたいです。</p> <p>【コミュニケーションカード】</p>							

4.3 他者と上手に関わるための方法

▶ 指導に当たって

- ・初対面の人や大勢の前では話せない実態から、トウコさんにとって今後必要となるであろうコミュニケーションの手段を身に付けるための活動を行う。
- ・**活動1**では、トウコさんが今実践できているコミュニケーションスキルについて確認したり、今後身に付けたいコミュニケーションスキルを選択させたりする。
- ・**活動2**では、**活動1**で選択したコミュニケーションスキルを身に付けるための練習を行う。単なる訓練にならないよう、カードゲームなどに取り組みながら、ねらいとしているコミュニケーションスキルを習得させる。トウコさんにとって、通級指導教室が安心して自己表現できる場となるよう、楽しい雰囲気を取り組めるようにする。

▶ 指導のねらい

- ・他者と上手に関わるためのコミュニケーションスキルを身に付ける。(心・人・コ)

▶ 指導過程 (展開)

段階	学習内容	指導上の留意点
展開 20分	<p>活動1</p> <p>・自身のコミュニケーションを振り返り、今後身に付けたいコミュニケーションスキルを選択する。</p> <p> コミュニケーションスキルには様々なものがあります。すでにトウコさんが実践できているものもありますね。</p> <p>「うなずく」はできます。</p> <p>そうですね！私が質問したときに、うなずいたり首を振って答えたりしてくれるので、分かりやすいです。では、この中で、これから新しく実践できそうなことは何ですか？</p> <p>目を見て話を聞くのは苦手だけど…… （「相手の目を見て話を聞く」を指さす）</p>	<p>【様々なコミュニケーションスキル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うなずく ・相手の目を見て話を聞く ・敬語を使う ・相手に合わせた話題を出す ・分かりやすく伝える ・嫌な思いをさせない断り方 ・相手の気持ちを考える <p>・コミュニケーションスキルの一覧表などを示し、できていることや今後身に付けたいコミュニケーションスキルを選択させる。</p> <p>・すでにできていることについては、認める声掛けをする。</p> <p>・本人が選んだ「今後身に付けたいコミュニケーションスキル」を、活動2を行う際のテーマとする。</p>
20分	<p>活動2</p> <p>・カードゲームをしながら、ねらいとしたコミュニケーションスキルを実践する。</p> <p> 目を見るのが難しいときには、相手の額や襟元を見るとよいですよ！相手からは目を見ているように見えます。</p> <p>いいですね、しっかりできていますよ！</p> <p>これならできそうです！ </p>	<p>・活動1で選択したコミュニケーションスキルを実践してみることをテーマにカードゲームに取り組む。</p> <p>・実践が難しそうな場合は、コツを伝える。</p> <p>・うまく実践できていた際に、認める声掛けをしていく。</p> <p>・ねらいとしているコミュニケーションスキルを身に付けることができるような特別ルールなどを付け加えてもよい。</p>

▶ 生徒の実態

中学2年男子生徒クウさんは応援団に所属し、人前で大きな声を出すことをいとわなかったり卓球部で練習に励んだりなど、何事にも全力で取り組む生徒である。しかし、①思ったことをそのまま口にしてしまうため、周りの生徒とのトラブルが多い。学級では、体型を気にしている②女子に対してデリカシーのない発言をして泣かせることがあった。また、③友達の失敗を笑ってけんかになることもあったが、いずれの場合も④自分の非を認めるのに時間がかかった。周囲の生徒に⑤一方的に話をするが相手の話は聞かない面もあり、周囲の生徒が距離を置くようになっている。学習面での困難はあまり見られないが、教師の発問に対し、⑥他の生徒が発表するために挙手しているのをよそに、答えを言うてしまうことが度々あり、周りがしらけてしまっている。

▶ 指導課題の整理

- ・①⑥思ったことをそのまま口にしてしまうことがトラブルの原因になっていることから、その場に適切な発言について学ぶ必要がある。
- ・②③その場にふさわしくない発言や行動が見られるので、日常生活の暗黙のルールを理解したりマナーを身に付けたりする必要がある。
- ・⑤相手の立場を考えず一方的に自分の話をしていることや、④トラブルについて指導を受けた際、自分の非を認めないことから、他者の気持ちを理解する力が乏しいと思われる。他者との関わり方や良好な関係を築くスキルを身に付ける必要がある。

▶ 年間指導目標と具体的な指導内容

- ・集団生活のマナーを身に付け、その場に適切な行動や発言ができるようにする。(心・人・コ)
- ・周りの生徒とのトラブルを減らし、良好な関係を築けるようにする。(人・コ)

○選定された項目

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	情緒の安定に関する事	他者とのかかわりの基礎に関する事	保有する感覚の活用に関する事	姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2)	病気の状態の理解と生活管理に関する事	状況の理解と変化への対応に関する事	他者の意図や感情の理解に関する事	感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事	言語の受容と表出に関する事
(3)	身体各部の状態の理解と養護に関する事	障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	自己の理解と行動の調整に関する事	感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	日常生活に必要な基本動作に関する事	言語の形成と活用に関する事
(4)	障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		集団への参加の基礎に関する事	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	身体の移動能力に関する事	コミュニケーションの手段の選択と活用に関する事
(5)	健康状態の維持・改善に関する事			認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	状況に応じたコミュニケーションに関する事

<p>具体的な指導内容 (放課後)</p>	<p>・日常の具体的な場面を通して、その場に適切な行動や発言について考える。 → 指導例 5. 1 (P. 59)</p> <p>・自分で具体的な場面の絵を描いたり、教員とのロールプレイをしたりしながら、場に応じた適切な行動について学ぶ。 → 指導例 5. 2 (P. 60)</p>	<p>・グループ指導を行い、他者との会話を通して、話の聞き方や伝え方、友達との上手な付き合い方について学ぶ。 → 指導例 5. 3 (P. 61)</p>
------------------------------	--	---

<p>通常の学級における配慮事項</p>	<p>・周囲の生徒に対する気になる発言があった場合、注意するのではなくその場で望ましい行動を教えるようにする。</p>
----------------------	---

5.1 日常生活の暗黙のルールやマナーの理解

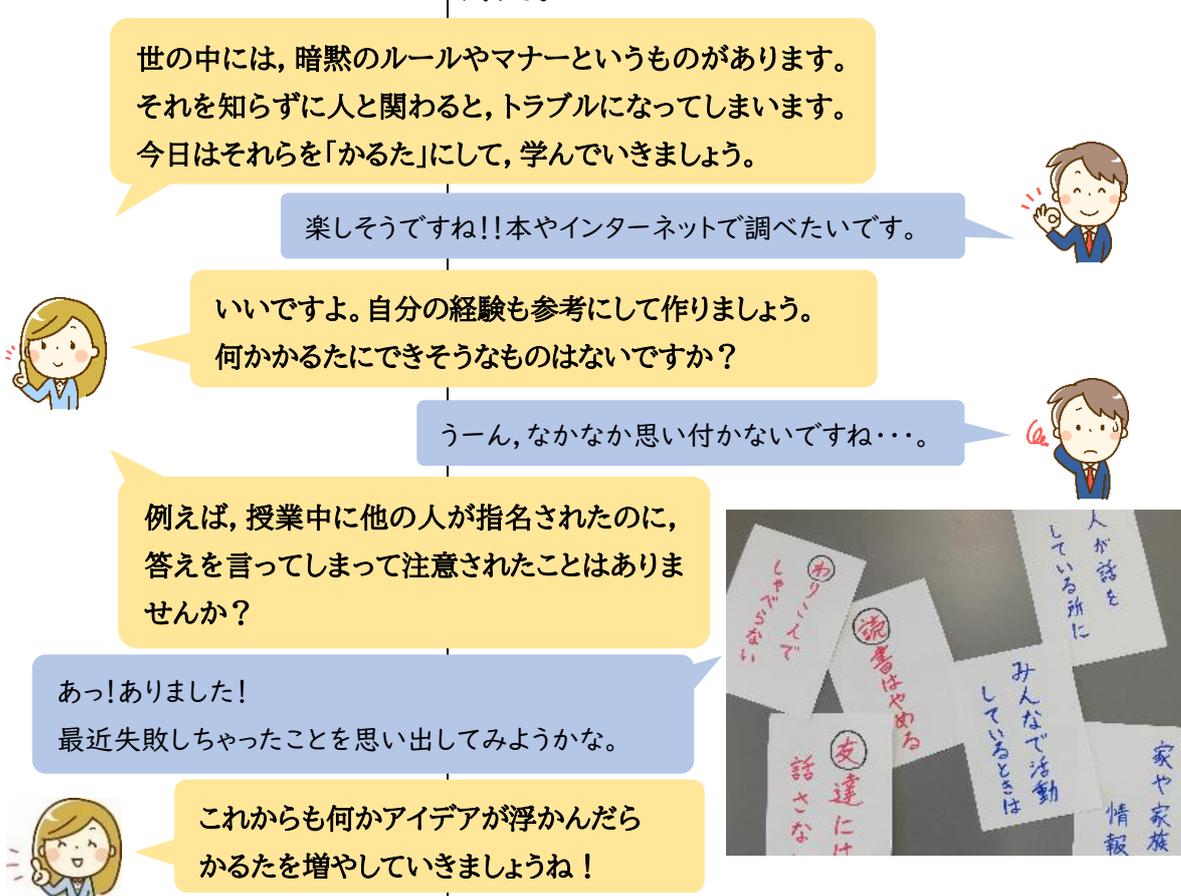
▶ 指導に当たって

- ・日常生活の暗黙のルールやマナーをかるたにして学ぶ活動。
- ・活動1, 活動2で, 学校生活での失敗経験を基にし, オリジナルのかるたを生徒自身に作成させ, 楽しみながら必要なスキルを身に付けていく。

▶ 本時のねらい

- ・集団生活のルールやマナーを身に付ける。(心・人・コ)

▶ 指導過程 (展開)

段階	学習内容	指導上の留意点
展開 30分	<p>活動1</p> <p>・「隠れたルールかるた」を作り, 楽しみながら暗黙のルールを学ぶ。</p>	<p>・「悲しんでいる人を／笑わない」など上の句, 下の句に分けて作成する。</p> <p>・学級担任からの情報や本人の失敗経験を基に, かるたを作成する。</p>
	<p>世の中には, 暗黙のルールやマナーというものがあります。それを知らずに人と関わると, トラブルになってしまいます。今日はそれらを「かるた」にして, 学んでいきましょう。</p> <p>楽しそうですね!! 本やインターネットで調べたいです。</p> <p>いいですよ。自分の経験も参考にして作りましょう。何かかるたにできそうなものはないですか?</p> <p>うーん, なかなか思い付かないですね…。</p> <p>例えば, 授業中に他の人が指名されたのに, 答えを言ってしまって注意されたことはありませんか?</p> <p>あっ! ありました! 最近失敗しちゃったことを思い出してみようかな。</p> <p>これからも何かアイデアが浮かんだらかるたを増やしていきましょうね!</p> 	
10分	<p>活動2</p> <p>・作成したかるたを使って学ぶ。</p>	<p>・紙の句を教師が読み, 下の句を生徒が取る形式にする。</p> <p>・下の句を取ったら, 上の句と下の句を続けて読む。</p> <p>・合っているかどうかの確認を生徒と一緒にする。</p>
	<p>「人が話している所に…」</p> <p>あっ! あった! 「割り込んでしゃべらない」</p> <p>では, 上の句から音読してみましょう!</p> <p>「人が話している所に, 割り込んでしゃべらない」</p>	

5.2 その場に合った行動や発言

▶ 指導に当たって

- ・活動1は、簡単な紙芝居を見ながらその場にふさわしい行動や発言について考える時間にする。
- ・活動2では本人の得意な面を生かし、日常の具体的な場面の絵を描き、せりふを考えたり書いたりしながら学ばせる。本人の描いた絵を通級指導教室内に掲示したり、写真に撮って縮小印刷したものを携帯させたりし、常に自分の行動について意識させるようにする。また、次時は、適切な行動や発言ができるよう、教員とのロールプレイを行う。

▶ 本時のねらい

- ・具体的な場面を想定し、適切な行動や発言ができるようになる。(心・人・コ)

▶ 指導過程 (展開)

段階	学習内容	指導上の留意点
展開 15分	活動1 ・紙芝居を見ながら、その場にふさわしい行動や発言を考える。	・日常生活での中学生同士のやり取りの様子の紙芝居を見て、登場人物の気持ちやふさわしい発言や行動について考える。教師が寸劇を見せてもよい。
	<p>今日は先生が一人二役になって、友達同士の会話がトラブルに発展してしまったという場面の紙芝居を見せます。トラブルの理由は何なのか考えてみましょう。そして、どんな言葉を選べばよかったのかも一緒に考えてみましょう。</p> <p>私もよくトラブルになることがあります…。</p> <p>大丈夫。一緒に考えてみましょう。では始めます。</p>	
25分	活動2 ・場面ごとの絵を描いて、その場にふさわしい言葉を考える。	・様々な場面を設定して、コミュニケーションをとるために必要な知識を学ばせる。
	<p>クウさんは、絵を描くのが得意でしたね。次は先生が話す場面を絵にして、その場にふさわしい言葉を吹き出しに書いてみましょう。</p> <p>絵を描くのは得意です!</p> <p>クウさんはAさんに用があってお話ししたいんだけど、AさんはBさんと楽しくお話し中です。どんな声を掛ければいいのでしょうか?</p> <p>うーん…。まず簡単に絵を描いてみます。</p> <p>絵を描くと、状況がよく分かりますね。では、Aさんに何と声を掛ければいいのでしょうか。</p> <p>Aさん、今日の部活のことで、聞きたいことがあるんだけど…。</p> <p>急に話し始めるとびっくりするので、「話しているところごめんね。ちょっとだけAさんに話したいことがあるんだけど…」と言ったらどうでしょうか。</p> <p>なるほど…気を付けたいと思います。</p>	

5.3 楽しく会話するためのルールを理解

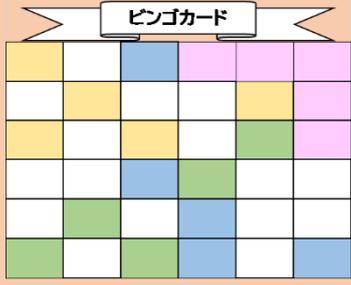
▶ 指導に当たって

- ・少人数でのコミュニケーションスキルを高めるためのソーシャルスキルトレーニング例である。
- ・クウさんは、自分で一方的に話をして友達の話を受けない実態から、まずは「活動1」で人と会話するときのポイントを言葉で順番に説明すると同時に、ルールを視覚化して黒板に提示しておくことにする。
- ・「活動2」では、ゲームを通して、友達と会話をする活動の中で実際に人の話を聞くことの大切さを実感させたい。教師も一緒にゲームに参加して助言することで、安心してゲームに取り組めるように配慮する。
- ・「活動3」では、ゲームを振り返って今後に生かそうとする意欲を高めたい。通級指導教室でできるだけではなく、通常の学級や日常生活でも意識して会話ができるようになるための活動である。

▶ 本時のねらい

- ・ゲームを通して、楽しく会話するためのルールを知り、実践することができる。(人・コ)

▶ 指導過程 (展開)

段階	学習内容	指導上の留意点
展開 25分	活動1 ・人と会話するときの注意点を学ぶ。	・3点に気を付けて、「質問ビンゴ」に取り組むこと話す。
	① 一人だけでしゃべらず、みんなで話をする。(話している人の顔を見るように話す) ② 「聞いているよ」のサインを出す。 (例) うなずき、相槌、(聞いた内容について) 質問するなど・・・ ③ 話の内容が聞き取れなかったときには、「もう一度、話してください。」と言う。	
	活動2 ・「質問ビンゴゲーム」をする。	・様々な質問にその場で答えたり、人の話を聞く練習をしたたりするゲームであることを伝える。 ・質問カードを事前に用意し、質問したり答えたりすることがスムーズにできるようにする。
	① 自分の色(赤・青・黄・緑)を決める。 ② 順番に質問のカードを引く。カードを引いた人は順番が次の人へ質問をする。 ③ 質問をされた人は、質問にその場で答える。 ④ 答えられたら、1枚のビンゴカードの好きな升目に自分の色を塗る。自分の色が縦・横・ななめ4つ並んだら勝ちになる。	
15分	活動3 ・ゲームの振り返りをする。	・ゲーム後には、注意点3つができたかの評価を行う。勝ち負けの評価にならないように注意する。 ・評価は自己評価だけではなく、お互いに評価し合う。その際、個人名を出しての批判にならないように、良かった点を評価するように指示する。
	3つの注意点に気を付けてゲームはできましたか？	
	 今まで、順番に話をするということをあまり意識していなかったの、話を聞くのも楽しかったです。	
	うなずきながら聞いていてとてもよかったですよ。聞いている人にうなずきながら聞いてもらうとどんな気持ちになりましたか？	
	聞いてもらっているのが分かってもっと話したくなりました。話をしている気持ちよかったです。	
		・うなずいたり相槌をして聞いてもらったりしたときの気持ちを共有できるようにする。